◎本號には支部顧問招待會の光景を寫眞版附錄とす

愛國婦人

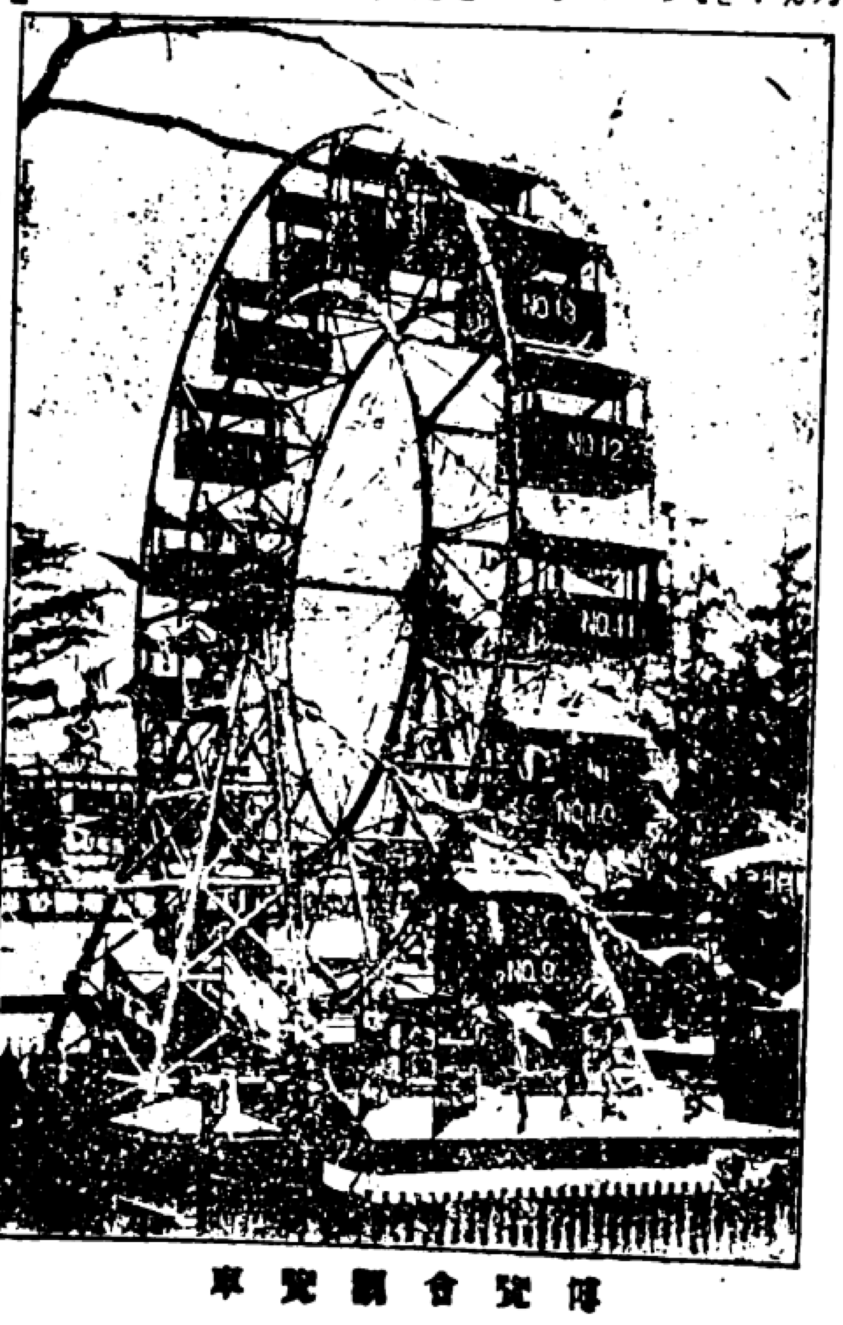
每月五日二十日發行
一部金參錢　一ケ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麹町區(牛ヶ淵公園)　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社說

快活

人間の一生運不運は免れず、不運なりとて泣いて居ても、運の神は氣の毒がりもせず、笑ふたりとて税のかゝるものにもあらねば、成るべくは笑ふて暮したきものなり。何不自由なく、人から羨まるゝ筈の本人が、何時も苦蟲を喰ひつぶしたるが如き顔をせる人あり、何が氣に入らぬか聞いて見れば、人が笑ふのが、氣に入らぬとか、それなら自分も笑へばよいに、さて〳〵損な人かな、之に反して、何時出遇ふても、富籤に當れるが如き顔をせる人あり、本人は勿論、こちらまでも氣分よく、御酒をあげて祭らずとも、本人即ち福の神なり、金を惠むばかりが慈善にあらず、愉快な顔して、向ふの人まで愉快にしてかへすは、これまた大なる慈善にあらずや。草木も日光に當てざれば、花は咲かず、快活は人生の日光なり、笑ひは肺と横隔膜を運動せしめ、肝臓、胃、その他の內臓に振動を與へ、心臓の鼓動をすゝめ、呼吸をまし、血行、分泌を良くして、衛生上甚だ爲めになるものにて、西諺にも笑へば肥るといへり、何でも陽氣なるがよし、米國の或る商人は、旅行中、商品の庫が燒けたる報に接し、失望鬱憂の餘り、殆んど自殺せんとせしが、國元にある七歳の少女より、「おとうさん、燒けたお庫を見に行きました、そしてまるで氷で覆はれて居て、大層美事でありました」との手紙を得て、覺へず笑ふて、思ひかへせりといふ。快活ならざる人は、バネなき車の石道を行くが如く、頭にひゞきて堪へがたし、世には充分心配を控へ乍ら、尙心配を捜がし歩るいて居るかと思はるゝ人あり、蟹の如く不平の泡を吹きて居る人あり蟷螂の怒れるが如く、其分にならぬ〳〵と、年中靑筋を立て居る人あり、何たる量見にや、笑止の至りなり、「仕事は、人を殺さず、屈託こそは、人を殺すなれ」、「決して起りもせざりし害悪の爲に、如何ほど、我々は費を見たる事ぞ」など、西洋でも、分つた人は言うて居るなり。或る子は、病める弟を、幸ひにし、笑ふようしたれば、自分も幸ひになり、笑ふようになれりといへり。ニーヨークには「笑ひ醫者」の名を取れる醫者ありて、病人に接するに、如何にも幸福なる顔をして、笑み傾けたれば、病人にも、自ら其機嫌うつりて、藥よりも、此方がよく利きたりといふ。或る佛人は、「友よ、勇めよ惡魔は死せり」といふが口癖にて、町より町に吉報を知らせて、人々に勇みを與へ居たるが、或時道にて小娘の水注を落して毀ちたるを見て、例の「友よ勇めよ」をやりしに、小娘は泣きをやめて去れりといふ。「友よ勇めよ惡魔は死せり」何等氣持よき言葉ぞ、かゝる氣持の人は、貧も不運も苦にならず、眞に仕合せの人といふべし。

フランクリンは、快活なる一人の職工に付て記して曰く、余の仕事場の近所に、何時も愉快相にて、誰にも親切なる言葉を交はし、且笑顔をして、天氣の寒、曇如何を問ず、嘗て變れることなき職工ありき、されば或朝出遇ひし時、その上機嫌の秘訣を問ひしに、答へて曰く、別に秘訣とてはなし、唯余は最良なる一人の婦人を、妻とするを得て、仕事に出懸くる時は常に勵ましの言葉を與へ、歸り來る時は笑顔を以て迎へ、茶は乾度沸かしあり、且何角出來居りて一日の勞を慰め呉るゝが故に、人に向て、不親切の語を出さんとするも、出すべきものなしといへりとぞ。斯る妻をもちたる人は、實に仕合せなるかな。世界は快活なる人の所有にて、くよ〳〵思ふだけが損なれば、何でもサッパリと陽氣に暮すべし、日は誰れの頭にも照り、花は誰れの眺めにも任すにあらずや。



博覽會觀覽車

靖國神社臨時大祭

本月二日より五日まで、靖國神社臨時大祭を執行せられ、三十七八年戰役に僵れたる軍人、殉難志士等二萬五千余名を合祀せらる、人生れて國事に僵る、國民としての名譽本懐此上やあるべき、殊に此度の大祭に於て二十二名の看護婦が合祀せられたるは、我國婦人歴史に於ける空前の事にして、實に婦人界の光榮なりといふべし、我々は讀者が人目を聳動するもの多き今日、殊に此一事に深く注意せられんことを望むものなり。

愛國婦人會と將校婦人會との紛議云々の新聞記事について愛國婦人會の告白

我が愛國婦人會が將校婦人會を三萬圓にて買收せんと計り議遂に行はれずして兩會の紛紜を來たしつゝありとて近來の新聞紙上に於て傳ふるものあるも我が會は一切干知せざる事柄なり而已ならず我が愛國婦人會と云ひ將校婦人會と雖も共に營利的の會社にあらざるを以て金錢にて買收するが如き事は彼我共に有り得べからざる事柄にして全く無根の事柄に屬せり此件に付きては兩會共迷惑を感ずる處なり而て斯く虛說を生み出すに至りし原因は元來將校婦人會の目的とする處は陸海軍の將校の遺族中の孤兒を養育するの目的にて將校婦人相寄りてこれを救はんとの計畫なりし處近頃に至り同會は更に下士卒の孤兒をも收容するの計畫あるを聞き我が愛國婦人會に於ても生計不如意の下士卒については同樣の計畫あるを以て軍人遺孤敎養の事業は兩會相提携して經營し會の性質上將校の遺孤は主として將校婦人會に於て收容し下士卒の遺孤は我が會に於て收容し其費用の如きも互に分擔して經營せば互に便利よからんとの事を我が會の小笠原中佐渡邊少佐及び將校婦人會の梅田少佐と打寄り好意的に內々打合を爲しこの事を將校婦人會の幹部に於て內決せば双方の會より互に事務長會同し協定を爲したる上にて兩會の會議に付し決定せんとの內約にて右三氏は別かれたる由然るに梅田少佐には如何に解せしものか此事を本會より公然に申込たる如く心得且つ其間の意思を取違へたるか突然にも軍人遺孤兒敎養の事について兩會提携するは承諾するにつき此際將校婦人會に數萬圓の寄附を乞ひたしとの事を本會庶務課の高松中佐に申込み來りたるを以て高松氏は前記三將校の會合等一切知ざるにより事の意外に驚き本會會計監督佐藤正氏に語るに何故の事なるやと佐藤氏は右三將校の會合は多少耳にし居られたるに付き夫れは何乎の間違ならん能く渡邊少佐に聞かれよとの事なりしを以て高松氏は其旨渡邊少佐に尋ねし處渡邊少佐も斯る事を先方に於て申出るは何か事の行違ひならん自分より尙善く聞き尋ねんとの事なりしが其後渡邊氏よりの回答によれば右の話しには行違ひあるを發見せしにより話合の件は一時預り置くとの回答あり則ち右三將校の話合も其儘中止になり居る次第にして要するに本會に於ては右數氏を除く外婦人役員諸氏は勿論其他の相談役等に於ても何等の事情を知るものなく從つて會の紛議等は起りし事なく若し話合に間違ひありとすれば右三將校の好意的內相談中に行違ひの起りしものと認むるの外なし然るに此關係を直ちに兩會に結び付け兩會紛紜の如く云ひふらすに至りしは何か爲にする處あるものゝ行爲と認むるの外なし尙時事新報には兩婦人會の紛紜と題し將校婦人會方の話しとして有久某氏の談話として掲げあるも事實に相違する點多く有久某とは如何なる者なるか名もなき人の責任なき言に過ぎざるも其中に於て本會に向つて輕卒呼はりをなす如何にも憫笑の外なし會員中新聞記事に對し誤解を生ぜざるやう如上の事實を會員諸君に告ぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

國民的教育

伯爵　大隈重信

日本の教育には服從と云ふ教育はよく行き渡つて居るが、自治的精神の教育が欠げて居る、義務と云ふことに重きを置いて權利と云ふことには殆んど云ひ及んで居らぬ、故に自己が自己の權利を認めて立つと云ふ、人としての自覺が無い、自分は如何なる支配を受けて居るものであるか、國民としては如何なる公民權を有して居るものであるか、其自覺さへ日本の國民には欠げて居る、昔は士太夫さへ學問して居れば宜い、其他は只上の命令に服從して居りさへすれば宜い、民として賴らしむ可し知らしむ可からずと云ふ主義で、天下の人民を率いてさへ行けば宜かつたのであるが、苟も今日の國民たる者には、平等に、無差別に、或る程度迄の教育を與へねばならぬ、昔の如く命令に只盲從する斗りでなく、汝の權限は憲法に於て與へられて居る、此與へられて居る權利を自覺し、又時には主張する丈の力を備へて居らなくてはならぬ、教育のことは一朝一夕にて行はれるもので無い、深く其根底から養はなくてはならぬ、公に對する奉公心又公共心等を作るは、皆教育に依らねばならぬ、教育の根本には教育勅語がある、此勅語には忠孝と云ふことがある、この語には權利の思想を含んで居る、教育勅語には義務の方面斗りであると勅語に反對するものがあるが、吾輩は反對しないのである、反對しない理由は勅語であるから反對しないと云ふのではない、君主の命令でも絕對的に盲從するのは佞臣であるが、善く諫奏するものは忠臣であると昔から定まつて居る、故に勅語に國家の爲め不利益と認むる處があつたらば、吾輩は諫奏するのである、又勅語には大臣が副署して居つて、大臣が責を負ふのであるから、副署に反抗し、無遠慮に批評するのであるが、我輩は教育勅語はそれてよいと云ふのである、義務のみであるやうであるが、忠孝のことがあるから宜いのである、憲法の中に於て臣民の權利を認められ、公民權をも與へられて居るが、此權利を十分に發達せしめ、十分に主張することさへ出來ぬ國民があつたならば、其國民は忠臣であらうか、不忠臣であらうか、教育者は政治を談することが出來ぬと考へたなれば、國民教育の精神はなくなつて仕舞ふのである、教育せねば自治的國民となることも、自治の能力を備へることも、資格を作ることも出來ぬのである、法律では如何に能く規定されこれを指導しても、國民にこれに應ずる丈の能力資格を持たぬ時は、法治國の國民であると云ふことは出來ない、自己の生活の爲に學ぶと云ふのでは教育でない、個人主義ても教育其ものは自己的のものでない、法治國の國民は私權丈けでない公權を教へ、公民又は國民としての道を教へねばならぬ、而て國家が能く教へざるの民をして、公事に强ゆることは出來ぬのである、議員を選擧する投標權の如き公の權利も私の爲めに用ゐられ、從つて議員にも代表的の働きを爲す能力が無くなるやうになつては、折角の戰勝國も退歩することになる、故に公共的精神を養成して、國民教育の堅き基礎を作らねばならぬ。

女子と理科學

理學博士　齋田功太郎

學問上に於て日本人と西洋人とを比較すると、日本人は槪して科學的の思想に欠乏して居る、此原因は從來日本の學問は精神上にのみ重きを置いた爲め、國民の思想が實際から遠ざかる傾向となつたので、今日では先づこれを不健全な思想と云はねばならぬ、然し男子の方面では近頃余程此欠點が補はるゝ樣になつたが、女子の學校では未だ科學的の教育が充分行屆いて居らぬ、夫れ故に目下日々の生活に必要なる物質上の智識を完全に備へて居る主婦は甚だ少ないと思ふ。

先づ其一部分たる植物學の如きは、食物の主任者たる主婦としては必ず相當の智識を有して居らねばならぬものである、然るに今日はまだ學理を應用して食物の改良を計つたとか、日々最も多く使用する油は如何なる原料により如何なる作用をなして製造されか物であるか等に就て實際の研究をなしたる婦人あることを多く聞かない、のみならず日常の食品にも深き注意を拂はず、無爲に過して居る婦人が多數であらう、これが日本に於ける家庭の一大缺點である。

扨て萬事に就て斯く婦人の智識が不完全であるとすれば、家庭の進歩とか改良と云ふことは容易ならぬ難事と思はねばならぬ、自分が嘗て經驗したことであるが、味噌の如きは少しく學理を應用して、從來の製造法に多少の改良を加へたなら、味もよく貯藏の方法も困難ならず、家庭に取つて非常に有益なる結果を得ることが出來る、夫れて先づ女子に理科的の智識を養はしむることが目下の最大急務かと思ふ、專問の學者となる人は別とし、普通の婦人は大抵主婦となる者が多いから、高尚なる宇宙の眞理を探究するより花やかな美文を綴ることを學ぶより、先づ日常の生活に不都合を來たさぬ實際的の智識を養はせねばならぬと思ふ。

要するに今日日本婦人の不健全なる思想は啻に婦人のみの罪ではない、素より教育の方法當を得ざると、遺傳的に婦人が文學的宗教的に傾いて居るからとて、理科樣の學課が頭へはいり難いのである、夫れてあるから今學びつゝある所の女學生、及び或は之が母たり姉たるの人が、勉めて此缺點を補ふことに自から注意するやうになると、凡ての改良も餘り遠からぬ内に好結果を見らるゝことゝ思ふ。

男子に對する希望
五箇條

男子は女子に對して社交、家庭等に諸種の希望を有し、これを要求すること頻りなり

社交、家庭の事、豈單り女子の力のみを俟て成就すべきものならんや、女子また男子に對して希望要求する所無かるべからず

乞ふ諸姉が男子に對して希望する所信の五箇條を投ぜられむとを

規定

一、一箇條を廿五字以內に認むる事
二、投稿締切は**五月十五日**の事
三、投稿は女子教育家の選擇を經て本紙に掲載發表する事
四、匿名にても差間へなき事
五、當選者には薄謝を呈する事

女子教育の程度

成女學校　宮田修

社會の文明に進むにつれて生活の程度が高くなり、生活の程度が高くなるにつれて男女の結婚は容易に行はれず、又離婚と云ふことも多くなつて來るかと思はれるが、今日の如き女子教育の程度に於て、果して婦人が善く其難局に處して往くことが出來るか否や甚だ覺束ないことと信じます、今日婦人社會に於て教育を受けたるものと云へば、高等女學校の卒業生が其標準點であつて、高等女學校を卒業しさへすれば、先づ以つて嫁入りの準備丈けは整ふたと云ふ風であるが、高等女學校を卒業した丈けて良妻賢母となることが出來、又生活の困難にも打勝ち、離婚等の場合にも善く獨立して生活し、所謂社會の荒き波風に耐へ得る力があるかと云ふに、今日の如き教育の程度では六ヶ敷いことと思ひます、高等女學校は只普通學を修めたに過ぎないので、是れと云ふて專問の學問をしたではなく、男子と比較すれば其程度も幼稚なもので、學問に依つて衣食することの出來ないことは勿論、未だ人間が十分に出來て居らぬのであります、此未成品を以つて直ちに一人前の良妻なり賢母なりに据置かうと云ふのは甚だ困難なことと云はねばなりません、良妻賢母說もよろしいが、男子は家庭に於て良夫たり賢父たる外に、尙社會上の働きを爲しつゝあるが、婦人は家庭内の仕事さへ十分に整はぬ位ゐゆゑ、社會に出て働く力がありません

私も良妻賢母說は贊成して居りますが、尙此上に多少擴張して、婦人をして家庭の人計りでなく、社會の人となるまでに教育する必要があるかと思ひます、殊に今日の婦人には常識が缺けて居つて、社會國家の事を知らないものが多い、人を作る學問は倫理學でありますが、高尚なる學問を机の上で書物に依つて教へた處が、到底實行なり應用なりが出來るものではありません、矢張り事物に接觸して判斷力を養ひ、且つ注入的でなく、一の問題を與へてこれに適當なる答辯をさすやう、腦の訓練が必要であります、凡そ世の中のことは何事でも、順風に帆を擧げて春の海を往くことは誰れにでも出來ますが、逆風怒濤に向つて艪を押し切つて渡ると云ふことは、航海に熟練したる海員でなくては出來ぬ業であります、兎角く渡世は順風が少く、逆風が多い、學校では只春の海に帆を擧げて往く位ゐの事しか教へられず、逆風に處するの途は絕へて教育を受けません、故に婦人が波風荒き社會に出て狼狽するのも無理ならぬことであります、其處で私は女學校の修業年限を延ばしても、今少しく程度を高尚になし、學校で習ひ覺へたる丈けても、裕かに獨立生活の出來る程に爲すが必要であると思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

撞木杖

長濱嘉子

『おぢさん、お芋を一錢お呉れ。』中目黒は廣部のとある往還傍、後はゆるう流るゝ多摩川の水上に沿ふたくずや葺の菓子店へ六つばかりの、汚らしい子供客が這入つて來た。

『よし來た。』

とばかり返事して、今しも店の一方なる臺に倚りかゝつて講談本に讀み耽つて居た、三十五六の黄色い顏した男は立ち上つたが、片足は無いと見え、撞木杖を突いてヒヨイと立上り、庭へ降りて笊からふかし芋を取り出し、

『大まけだよ。』と渡してやると、小さい客は威勢よく歸つて行く。

外はもう夕暮の氣配で、鐘の音が丘を越えて響いて來、彼方の水車の音がしんみりと聞えて來る。往來には鼻唄で歸つて行く馬士、小風呂敷下げた女房と、何れも暮を急ぐ風情、男は凝と眼をすえて外面を瞶つて居たが、何に感じてか

『あゝあつ』

と深い〳〵溜息を漏らして、焦れつたさうに左の手で頭の毛を掻き挘つた。

一體此男はもと大工でかなりの賃銀をとつてたものであるが、過る日露の役に後備で召集され、旅順口の陷落する少し前、敵の砲彈のために片足を失ひ、剩へ右の二の腕深く破片がその儘に殘つて殆んど自由が利かなくなつて了つた身なのである。

『不可ませんねえ、又初まつたんですかい?。』

聲に驚いて回顧ると、直ぐ後に今迄裏の流で何か洗ひものをしてゐた妻が、濡れた手をふき〳〵端折つた裾を下ろして立つてゐた。

『何が』

『何がつて屹度さうなんですよ、戸外を見つめてあゝつて！ あの通る人達の壯健さうな足つきや、向うへ行く道具箱を肩に、仕事場の歸りらしい袢纏着を見て、お前さん昔を思ひ出して今の自分の身が情なくなつたんてせう。』

『那樣こと云つたつてお前無理だね、此體軀で普通の人が羨やましく無えつて筈がないぢやないか。』

『だから不可ないつてんですよ、そりやあ不自由でもあり、はがいくも有りませうけど、その怪俄は唯の普請場なんかて

爲たのとは譯がちがつて、國の爲に戰爭に出て露助の彈をうけとめた傷ぢやありませんか、一所に行つた茂助さんは病氣で死ぬし、其外親子兄弟に先だつて戰死した人は幾何だか知れない程あつて中に、例へ片足片腕もがれた所で、斯うして生て歸つて勿體ない恩給を戴いてさ、樂しく面白く一所に暮らされるやうになつたんですもの、ちつとも悲しむ事あ有りませんよ。』

云ひ〳〵襷をはづして側に座り、嬉しさうに嫣然とする。おはつと云つて田舍にしては色の小白いちよいと目立つ器量、夫の身の上を人知れず、憂えて泣いてしかもその前では、さも何も思はぬ氣に唯いそ〳〵と慰め奬ます心盡し、と彼は不覺ほろりとなつた。然し直ちに氣を取りなほして、

『然うだつけなあ、お前がその量見だからこそ俺が村での褒められ者になれたんだ。然しおはつ、もう俺にやあ愛想がつきたらう。』

『え奈何して？。』

『奈何してつてお前、お前ほどの容貌をもつてゐやあ甚麼亭主だつて持てるんだに、這麼意久地なしの片輪に連添つて居ては一生浮ぶ瀨が無えんだもの、嘸不足だらう、と俺お前が可憐しいにつけ、可哀想で堪えられねえんだ。』暗然とするを、

『可厭ですねえ、何を云ひ出すかと思つて聞いてれば、縁起でもない、およしなさいよ、不充らない取越し苦勞するのは、不足所か私あ又自慢でね、御國のために怪我しなすつて名譽な事だと人に云はれるたんびに、あゝ私はその人を連合に爲てるんだなと、恁う肩身が廣いやうな氣がして喜んでる位なもんでさあ、何しに愛想なんか盡かすものですかね、さうでせう。』

『あゝ然う云はれると俺泣き度なるぜ、何するつてもまる〳〵お前に厄介かけて……………。』語尾は顫を帶びてゐるのである、この詞におはつも堪え切れず、落つる雫を襦袢の袖でそつとぬぐつて、

『まだ那樣事云つてるの、他人行儀な、もうよしませう、何だか這麼話をすると濕つぽくなつて不可ませんから。』と氣を換へて『さあ損ですよお互にもつと元氣よくしませうねえ、エ、と今日はお菓子の方の賣れ高はどの位でした。』

『賣り上げかい五十八錢斗り。』

『おや大層ね、小切の方も今日は大分出てかれこれ一圓近くなるんですよ、それに工場の退けていくらも這入るてせう、ですからねそれを此間からのと一つにして銀行へもつてきませう。』

わが妻ではあるが、何所迄もやさしい氣質の女よと凝と瞶つて居た彼の眼に一ぱい涙が充ちた時、叶はぬ手に思はずも近く引寄せて。

『おはつ、俺何にも云はねえ、難有てえッ……………。』

春の日は靜かに暮れて中目黑の火藥庫では、今し終業の汽笛が鳴り出した、入日は赤く、ほゝづきのやうに、夕燒雲は又も麗かな明日を豫言するかのやうに。

（をはり）

東西名婦傳

今川氏親夫人中子

須藤求

凡べて信仰心ある人は賴もしき所あり、信仰心なき者は信用し難き所あり、當にならぬ時あり、信仰心は有りたきものなり。さればとて、信仰の爲に偏屈なるも宜しからず比較的婦人達には凝固る方多きやに見ゆれど。此はそれに引替へて、一の信仰心を有てる女性なり。今は昔三百有餘年前、今川上總介氏親の夫人は、治部大輔義元の母なり、名を中子といへり、或時人に誡め諭されけるは、なべて世の人の貧富は、其人の常の行にあるべし、行善くての上は天命にあるべし、行正しからぬ人の天道次第は自ら招く天罰なり、物の應報因果といふ事は、克く身を務めて後の事なり、兎角明らけく天命の理を知れるは歷々の物まなびたる人にも希なるべし。すべて運を天に任かすといふ事は、人の務むべき道を盡して其上の覺悟にこそあなれ、此に至りては生れ得たる身の業なれば、善人にして禍を免れざるも、自から運のつたなきを諦めて、泰然として心を安んじ守るべし、天を怨み人を尤むべき事にはあらじ。夫れ故、人道を盡せる上ならでは天命の覺悟は定まるべからず、苟も士たる者は、此覺悟極めて大切なり。世に始めの程は志ある人と見ゆるも、善を勤むれども人に好みせられず、忠を盡しても効顯はれず、反て禍多く難を免れざれば、つひに詮なき事に思ひ、すゞろに恨みて心ざしをはぶらし、甚しきは自暴自棄といふものになりて、故意とも世に背き道に悖るに至る、これ運命の覺悟に暗きに由りて心取り亂して節を守ること能はず、かく淺ましき心さまとなるぞ悲しき、さるにても、別きて女の惑ひ易きは、神いのり佛だのみの所業なるべし、徒らに家の務に怠り身の持なしを愼まずして、只に神佛の力を恃みにし、動輙すれば、彼所の神社へ祈願を込め、此處の佛寺にて護摩をたかせ、巫女山伏に秘を行はしめ、祈禱の札を貼り連らねなど、樣々うつけたる事の限りを盡し、是をもて災をのがれ福を得んと思へるは、愚かに拙き心なる哉、例之ば、其身病み煩ひぬるに養生を愼しまず、藥を怠りて、只に神の加護を勞せんとせば、いかでか冥加にかなふ事あるべき、反て神もうるさくこそ思し召すらめ云々といへり。人事を盡して天命を待つといへる此女性の信仰心は、また難有くも賴もしからずや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

育兒のしをり（上編）

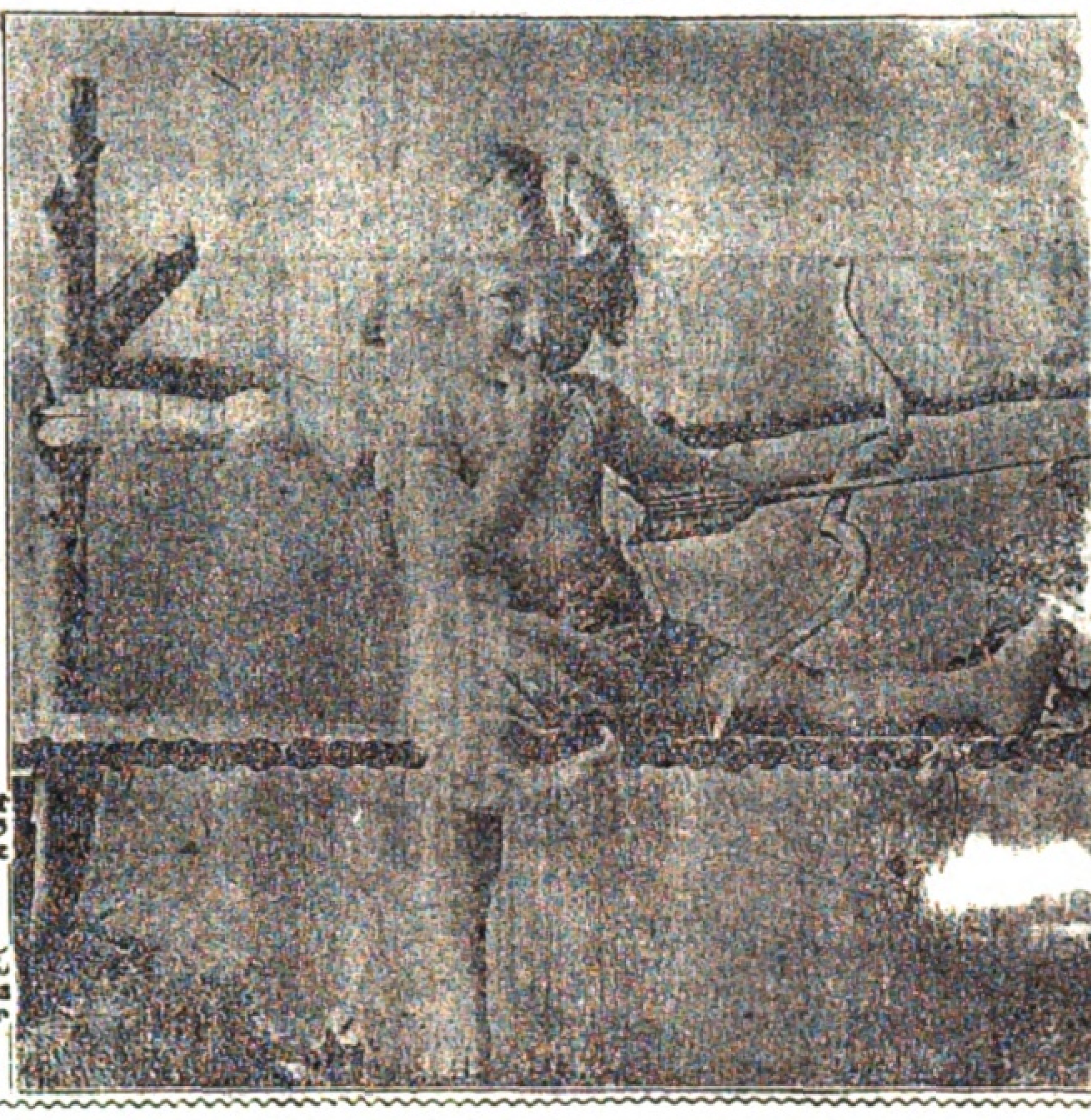
ドクトルメヂチーネ　長井岩雄

第二　小兒食物の事

（乙）離乳後小兒の營養

前に述べたる如く人乳は滋養分に富み消化し易く、又絶へず分泌するが故に、小兒授乳期中は營養の事に付てはいと簡便にして、手もわけもなくいつしか發育するものなれども、さて離乳後は食物一變するが故に、其營養に一大變化を來し、夫が爲に或は胃腸症を起し、或は營養不良を起すこと尤多し、因て離乳後暫時は食物即ち營養の大切なる事恰も乳兒時期と同じ、されば受乳期中は無事健全に肥滿したる小兒も、離乳後顏色あしく、比較的體重增加せざるは、全く營養の關係にして、即ち滋養分不足するが故なり、因て父母は此の件に注意し、毎日三食に氣を附け、なるべく雜多の間食を與へぬようすべし。

抑々小兒の身體發育に尤も緊要なる者は、前に揚げたる一定量の蛋白質、脂肪。糖分、鹽分、及水分なり、若し此の成分に甚しき不及ある時は、忽ち身體に異狀を來す、されば、此五要素は實に吾人人體の生活上　尤大切にして、一日も欠ぐ可からざるものなり、今之れを汽船に例なれば、此要素は恰も石炭の如く、若し夫れその石炭燃えて始めて湯を沸かし、湯沸きて機關を動かし、而して船走るなり、我人體も亦然り、毎日攝求する食物中に此の五要素ありて、體內に於て所謂燃燒作用を起し、始めて吾人身體の生活機關を活動せしむるなり、されば天地間總ての食物中、皆此の要素を含む、例へば米、麥、野菜、果物、魚肉、鳥肉、獸肉皆然り、只其含有量に多少あるのみ、然るに小兒の腸胃は構造薄弱なるが故に尤も消化し易き食物を撰ばざる可からず因て乳兒時期中は其消化し易き乳にて養育し、追々成長するに從ひ、他の食物も與ふる所以なり　實に造物主の吾人に與へたる心盡しは、能もよくも行屆き、深く感謝の意を表すへきことならずや、さて小兒追々成長し、幼稚園に學ぶ頃は、齒牙も段々發育し、多少の固形物も食し得るが故に、從て毎日攝取する品も其嗜りにて吟味し、量を追々增さざるべからず、すべて小兒は身體發育盛なるが故に、從て其新陳代謝も盛にして、比較的大人よりも多くの食物を要するものなり、殊に乳兒に於て然りとす、今一例を擧れば、生後六ヶ月の乳兒の時、牛乳を以て育つときは、一日五合乃至六合を要す、其體重より打算すれば、實に多量なりと云はざる可らず。右の如く營養は乳兒も兒童も大切なるものにして、生理上實に忽にす可からざることは、上陳の理由あるが故なり、されば世の慈母たる人は日常其心もて營養に注意し、保育せられんことを願ふ。



米國の交際界

北村美那子

一度米國の交際界に出入したる人が、翻つて日本の社交界を見る時は、其寂寞にして興味少なきに必ずや失望の念を起すであらうと思ひます、米國の社交界は眞に活氣に滿ちて居ります、元來歐米人は自然の發達を重んじて居りますから、男女共に餘り少さい形式に拘泥せずに敎育されて居ります、夫れですから婦人は日本人に比して餘り不遠慮なと思ふ樣な所もありますが、併し度量があつて眞に愛すべき無邪氣な氣質を持つて居ります、故に一度其人の素性を知り、其品格を知りました上は、日本人であらうが支那人であらうが何の隔意もなく、兄弟姉妹の如き親切氣を以つて交際します。次に米國の交際社會は婦人が大勢力を以つて居ります、何人も知る如く米國婦人は一般に高き敎育を受くる者が多いために相當に見識を以つて居ります、故に社交界に出入する人々の品格に就ては充分の制裁があり、其交際仲間は比較的立派な人と云ふことになつて居りますから、安心して遠慮なく交はります、此れが交際社會に興味の湧出する一の原因となることと思ひます。

扨て今後の日本は益々社交と云ふことが必要にもなり、又時勢の潮流と共に必ず盛になることが明らかでありますから、遂には日本婦人も社交界の一大勢力となるべき時期が遠からず來ること、思ひます、夫れで私の考へでは、日本婦人は今の時が大に反省すべき必要のある時機と思ひます、併し私は全々西洋婦人を可とするものではありません、日本婦人の優美溫和の點に至つては到底西洋婦人の及ばぬ所でありまして、甚だ物足らぬ樣な感じがありますが、また之を購ひ得るだけの長所を他に持つて居ります、故に日本婦人は其の長を取つて短を補ふが第一かと思ひます。

人は元來社交的性質を多く備へて居るのでありますから、社交に興味を有する人は多いのでありますが、現時日本に於ける婦人集會の多數は餘り話も多く出ず、云はゞ御役目に列席すると云ふ婦人が多い樣に思ひます、此れは勿論習慣の然らしむる所で止むを得ませんが、此くては甚だ無責任の誹りを免れません、其任にあれば夫れ丈の義務がありますから、自ら其位地にある丈の力なきを悟つた時は、これを改善して行く方法を考へねばなりません、話しの出來ぬ人も意見を持てば自然發表せずには居れません、話しのないのは意見のないのであります、又意見のないのは自ら責任を感ずるの念が少ないからであります、何事にても自ら責任を感じて心を樣々に配つて見ますと、自然意見も出て、從つて心も働いて來ますから、其爲すことに活氣が滿ちて來るのであります、要するに米國の社交界及び各種の集會に活氣あり、且つ興多きは婦人の頭が活動的であるからであります、日本婦人は此邊の消息を了解することに勉むるが目下の急務かと思ひます。

時間と經濟

幹事　横幕武良子

今更改めて申すも拙なきことでありますが、日本國民が今日負擔の義務ある國債は廿三億萬圓あります、假りに五千萬人の同胞とすれば、一人に對し四十六圓の割合に當りますが、同胞の中には老、幼、病、不具者さへあり、三分の一を以て常常職務に從事する者と見做し、其者にて國債を負擔すべく假定せば、一人の割合百三十餘圓となり、鳥渡の考へには僅かの樣でありますが、上下貴賤を通じて一人に付百三十餘圓の財を得、國を富ませるは、一通りの覺悟では出來ぬことかと思はれます、故に其の十分の一なりと、其心掛けにて一歩の進退をも計らねばなりませぬ、一國を富ませるにも一家を治むるにも、時間の大切、時間の節約を第一に心掛けねばならぬことと存じます、例へ朝夕の半時たりとも身分相應の業に熱心從事致し、何事も經濟を斗りますれば、自ら成效し得らるゝことと存じられます、其れに就て一言述べ度きは、「時間は是即ち金也」と云ふことを心掛け、徒に時を費すことに付ては、深く注意を要し度ものと存じます、多くの人は口には言へど行ひ難きものにて、例へば婦人の集會の如きも、規定の時間に出揃はないと一般普通の如くにて、一時二時は必ず遲刻致し、其が爲多忙の人と雖も待ち合せの時間を無益に費さゝるの止むなきことがとなるは、まゝ見受る處でありますが、一人二人の爲に多くの人に無用の時間を費させるは、一國の經濟に取りましては誠に心なきことと存られます、故に是は何とかして改め度いものと常に苦心して居りますが、一人二人にて、かゝる事申したりとて、容易に行はれないことでありますから、上下何人も其覺悟にて時間の經濟を計つたならば、知らず〳〵國益となることとてあります、斯樣のことは少しく心掛けますればいとやすきことと存じます故、多人數集まる時の如きは、別して時間に後れぬ樣お互樣に勤め度いことゝ存じます。

▲愛國婦人會總會は來る十九日を以て青山練兵場に於て擧行せらる

▲當日發刊の愛國婦人は如何に美裝して諸姉に見ゆべき乎

和歌　祝愛國婦人會總會

▲諸姉が當日の盛式を祝する和歌を滿載して錦上更に花を添へむとす

▲發刊の期日迫まり居れり乞ふ來る十日までに詠草を投ぜられむことを望む

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

兒童は如何に教育す可き乎

高島平三郎

兒童の性質を學問上二つに別けることが出來ます、第一は運動的で、第二は感受的であります、運動的の子供と申すのは、顏の色は常に林檎のやうに赤くなつて居つて、性急で落付がなく、常にせかせかして居つて、遊び事でも一のことを始終熱心に遣り通すやうなことなく、一つ仕掛けては又た他の仕事に移ると云ふ有機で、僅かの間に一つ處に靜止して居ることが出來ないで、絕へず活動して居ると云ふのが、則ち運動の型式に屬するのであります、又感受的の方は、色は少しく蒼さめて居て、外に出て遊ぶことを好まず、常に家の內に引込んで、荒い遊びをなさず、繪本を見るとか、話しを聞くとか云ふことを樂みとして、少しの事にも泣き出したり、又怒りッぽくなつたりするのが、つまり感受的の型式に屬するのであります、親の眼から見ると双方とも心配して、自分の子はあんなに惡戲者で落付が無くては、とても立派な人にはなれまいと云ひ、又一方では自分の子の如くあんなに陰氣で、物事に心配するやうな性質では、到底立派な人間にはなるまいと思ふのであります、併し斯樣なる性質は、何れの子供にも共通に具有して居るので、孰れが是で孰れが非と云ふ譯に行きません、運動的型式の方からは軍人とか、商人とか云ふ活動的の職業を執るものが出來、又感受的型式の方は、哲學者とか文學者とか云ふものが出來るのであるから、親たるものはこれを心配しないで、其固有の性質はこれを助長せしむると同時に、一方にのみ傾むかぬやうに、他の性質をも交へてこれを調和さすことが必要であります、其方法として餘り氣荒なこせ〳〵した子には、最も和らかな氣永い仕事を與へてこれを導くやうにし、靜かて溫順な子には活潑な仕事を與へて、靜かに止まつて居つては劣等の地位に置かれるやうな遊技をさすが必要であります、又心の型式より云へば、視覺の型式、聽覺の型式、運動の型式、觸覺の型式、混合の型式と云ふやうに別れて居ります、子供に依つて物を見て善く覺へる子があります、元良博士の子で八歲になる娘の子が、或る時に運動會を見て來て歸つて茶を呑んで、其茶碗の中を覗き込んで、この茶碗の底に運動會がよく見へると云ふたことがあるさうであるが、これ等は視覺の力が非常に強いので、繪師などには最も適當であります、又子供の中には歌を善く覺へて、人の唄つて居る唄を聞くと直ちに眞似をして、其通りの節回しで唄ひ出す子があります、これらは聽覺の型式に屬するので、音樂家などには最も適當であります、併し一方に丈け助長することを勸めると片輪になつて仕舞ふから、混合的に教育を施さねばなりませぬ、これ等個人の個性を矯めて行くことは、學校教育では六ケ敷い、家庭教育に依らねばなりません、家庭に於て其親が一人一人づゝ其性質をよく研究して、これを指導し、殊に青年期に至つては其子の性質に適合したる業務の方面に向はしむることを勸むるが、親たるものゝ責任であります。

鶯兒鳴

松原至文

○

▲月曜。はれ。

日南に出てゝ古き繪本など繙く。庭三坪、南天の葉に日影暖かく輝はれて、猫の背白う光れり。垣の外より覗く人ありて『よッちやん鶯を上げやうか』といふ。小父さんの內の美いちやんなり。嬉しけれど、またかつがれて笑はれんも、流石に口惜しければ、唯だ微笑む。『內にはれ餌をする人が無いかられ、よッちやん貰つとくれよ……。二人仲間で飼はなくッて』

○

▲火曜。くもり。

雨催ふすらし、折々南天の葉に時雨の音はら〳〵としては休む。日に幾度となく緣端に出てゝ鶯籠をのぞく。寒ければか、羽をちゞめ、身をすぼめて、眼をのみぱちぱちす。嘴を腹の柔毛に埋めて、首を振るさま可愛さ限りなし。餌作りてやる。鶯、終日啼かず。啞の鳥かとおもふ。夜、雲晴れて、寒空銀星多し。

○

▲水曜。はれ、風暖かなり。

今日も至愛の遊兒、嘴をにこ毛に埋めて、啼くべき氣色無し。兄上餌を作りて學校へゆきたまふ。小父さんの內の美いちやん急病なりとて新助來る。宙を飛んで行く。小父さんはお留守にて御母さん目を泣き腫し給ふ。美いちやんうつゝになりてよッちやん〳〵といふ由のたまひて枕頭にゆけと言はる。急性肺炎のよし。

○

▲木曜。雨。いと淋しき日なり。

美いちやん遂に如來さまの高御國にまゐる。座敷は襖よりくゆる香の匂い高く、目のふち赤くはらした人多し。昨夜も今宵も美いちやんの內に泊る。小母さん『よく看護してやつてお與れだつたれ』とて泣かる。われも泣きぬ。

美いちやんの枕下にて小母さんにだかれて眠る。二人仲間の鶯の事を思ひ出して夢しば〳〵破る。

○

▲金曜。晴。

暖かき日なり。美いちやんを落合村の火葬場に葬る。小さき如來樣、淨土に行きたまふかや、夕日美しく、顧みれば一すじの煙細う上れり。家にかへりて先づ鶯籠を見る。啼かず。夕月の光水の如く椽先を照して明るきに、徐かに美いちやんの魂の行衞を思ふて座すとき、オ、唯だ一聲のさゝなき！〇〇〇〇。逝く人を弔ふ聲ならん、わが肺腑に深く〳〵通りぬ。

會員きと子

星の金貨

グリンムより

水月

むかし獨逸と云ふ國に、一人の御孃さんが御座いました、此の方は御父さんも御母さんも死なりましたので、御錢も御部屋も御寢間もありません、着たきり雀の御着物と、人から貰ッた「パン」の斷片とを持ッて居るばかしてした。

しかし此御孃さんは、すなほて音なしい方で御座いました、賴りになる人も御座いませんので、廣い野原に出て行きますと、一人の貧乏人に逢ひました、何か食べる物を下さいと申しますので、持ッて居る丈のパンを殘らず與ります、少したつと一人の小供か泣いて參りまして、私は頭が寒いから、何か冠る物を下さいと申します、御孃さんは自分の帽子を脫いで與りますと、暫くしてから又一人の小供が來まして、身體が寒いから胴衣を與れと云ひます、又他の小供が來まして上衣を與れと云ひます、皆んな與りまして、遂々森の中に參りました頃は、日がトップリと暮れて仕舞ました、此時又一人の小供が出て來まして、襯衣を下さいと請ります、慈悲深い御孃さんて御座いますから、夜も暗いし人も見やしまひ、襯衣を與れて與りませうと考へまして、それまで脫いて渡します。すると一時に天から星が降りまして、出來たてのピカ〳〵の金貨となりました、おまけに襯衣まで立派な麻のが出來まして、キチンと體に合うてなります、そこで此御孃さんは、此の金貨を集めまして、一生御金持て暮したと云ふ事て御座います。

鳥の辭

森田竹子

人は吾身の苦をしらず
唯中空を飛ぶのみ見て
我も翼を持ちなばと
人は吾が身を羨めど
さのみ安けき身に非ず
人の田畑に耕すも
吾身野山に囀づるも
同じ漿にてあるものを
さのみ吾身を羨みぞ
さのみ其身を果なみぞ

子守唄

子守唄は稚兒の耳には天使の聲なり、これに依つて稚兒に多大の慰安と、善き感化とを與ふ、最良の教科書なり

○

濱松　荻原さだ子

よい子の、お守を、賴む時、都へ探しに出たけれど、都のお人は氣短かで、濱邊のお人は氣が荒い、山家のお人は親切で、心が素直て、正直て、坊やの一番お氣に入り、いーつも泣かずに眠んねする、坊やのおめ〳〵が覺めたなら、もーりのお里へお供して、坊やによいもの、參らしやう、晝は野に出て艾摘み、夜はゴロ〳〵臼を挽く、うーさぎさんが餅搗いて、おーさるさんがお手ごして、よーもぎ餅が出來たなら、坊やに、澤山、參らしやう、よい子だ、よい子だ、よい子だよー。

○

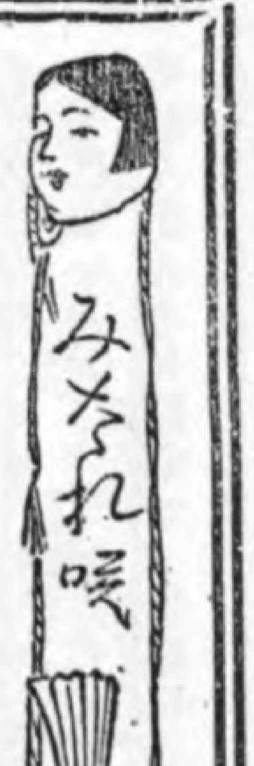
鶴島　松村邦子

ねんねん、ころ市、たけうま與市、竹を揃へて船に積む、船に積むだら、どこいくぞ、ゑーぞや對馬の、果までも、よいよい、よい子。

▲子守唄を募集します

成るべく珍らしいのをよろこびます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女子圖按の栞（中）

東京工業學校助教授　小室信藏

偖てまた現今の服裝はと見ますると東京は前申しました修業の平野てありまして種々の人が入り込みまするのと種類の變ッた文明即西洋風が直接に澤山に入り込みますから新進氣鋭といふ風が全體を通じて見えますので現今の過渡期であるといふ特徴も其大部分は東京に於けるハイカラ風といッて差支のない位のものと存じます。このハイガラ風といふやうなものも新進氣鋭で目先の變つた裝飾をと企望する處から從來我國には餘り見馴れない配合や裝飾をしますから兎角に世の評言を免れない。所謂「過ぎたるは猶及ばざるが如し」といふ有様でありますそれならば具體的に如何なる配合の服裝は範例として適當であるかと申しますると大體に於きまして京都は日本美術の神髓の籠た處と見え、また長い永い間の帝京であッたのとて特殊の工業が殆んど世襲的に發達しましたので武家幕府所在地から帝京と成變ッた東京の比ではないのであります。私は餘り精しくは存じませぬが、着衣には衣裳屋といふがあつて其着方の渾化に注意すると同時に各種の衣類の色合に付きて種々勘考して世話を燒いて呉れますものがあるさうて又化粧屋といふのがお化粧の指示をし注意をするのを專門として居るものがありますさうで。かやうな風の專門のものが出來て居りまするのも要するに其地方の美術に對する思想の一般に地歩を高めて居りますからのとて、裝飾といふことに就きましては非常に參考になるとと存ぜられます。一體京都を中心として大阪より西は山陽地方、又東の方は名古屋邊までは同種の趣味を有して居るかと見え。三河以東は關東の風が多いかと見えます。それて名古屋製造のものを見ますると上方向（京都方面）と關東向とは其色合の差の顯る明瞭であると申さねばなりませぬ。その京都方面のものは大體縞柄でも模様の柄ても乃至は色でも上品にといふ希望と見えまして稍近き同種の配合に傾き關東方面に於きましては異種色に傾いて居るといッてよろしいことてありませう。畢竟するに服裝に就きましては其時の流行といふものを措きましても其衣類の造り方又は其外形の上にも申すべき事柄は決して少くはないのてありますが主として私が申したいのは配色上の調和にあるのであります。それて京都人の服裝なども申すのてありますが。今日東京での新進氣鋭の特別な服裝も（或特別の意味あつて故意に異裝をなす方々は別として）大體主髓とする本領があッて其上てこの主髓たる基本觀念から創出して時々の流行品も取捨して之を用ふるといふ一見識あッての事に致したい。現今の服裝は大體に於きまして全く主髓たる配色に關する基本觀念が缺乏して居ります。京都風の衣類の配色を手本として其基本觀念を造り泰然として世相を觀察し取捨して流行に遲れぬ丈の都合はいたさねばならぬが其衣類の配色は大體に於て同種色の配合を基とせなければならぬのてありまして此の觀念は亦自然から導いたものてありまして私が製造して申すのではありませぬ。事が少し突飛になりますが異類生物の自然に於ける觀察を以てしましても同種色の配合といふとがよく了解されまする。即ち動物の保護色と申しますのは其生存競爭の上から見まして保護色と名付けましたのでありまするが、其生存して居りまする土地の情況から見ますると即同種色に外ならぬのでありましてかくして其動物と其土地とは順適即色の上から申ますれば互によく調和して平穩無事に其生涯を終へるとが出來ますのてあります。磽确な燒土様の砂漠地附近に捿ます獅子は其色合が頗るよく似て居り、竹に虎と通常いッて居りますのも何も竹に限つたとてない。禾本植物を意味して居るので、その禾本植物たる芦葦又は籐などの生茂ッて居る處に捿まつて居るので其根本の枯葉と同じ樣な色となり又其植物の影の映ッた樣な斑文を有するやうになッたと申すとてありますが。要するに同じ樣な色が其附近に多くあッて、それて不精密な眼には見はぐるとがあるといふので外敵から遁れるとが出來る、それて保護色といふのてあります。（日露戰爭の際には我軍の服裝がカーキ色となりましたのも滿洲の土地の赤色なのにまされるやうに即保護色を用ゐたのてあります。）この樣な例は他にも澤山にありますので熱帶地方には翅を疊んて居るとその附近に居る蛇が頭を上げて居る樣によく似た翅を持ッて居る蝶が居るといふとてありますが。これも保護色と同じ意味を持ッて居るのであります又東北地方に居ります兎は夏は夏草の枯葉などの色のやうになつて、冬になると又眞白になりて雪と差別がつかないやうになッて居ります。かやうな意味は同種色の配合を以て美なものと決定し用ゐるに至ッた自然の敎訓と存ぜられます。

▲想夫の玉章

青森　棚田滿智子

○筒井肥前守樣長崎表へ被成出候みぎり御息所氣遣に相成られ候に付座敷牢へ入牢の時此如く文通の由うつす

春夏過ぎて秋の田の、かりの契りを結びしよりも、君と此身は足引の、長々しよを送らんと、思ひ染めにし甲斐もなく、ふり捨てられし物思ひ、恨みわびぬるむれの内、沖の石にはあられども、なきあかしたる子規、今一聲の逢ふ事も、絕えてしなくばなか〳〵に、人をも身をも恨み侘び、ほさぬ袖だにあるものを、戀に朽なん我身なれば、置まどはせる白菊の、小倉山程氣をもみじ、一人ぬる夜のあくる間は、如何に久しき物とかは、知る人にせん高砂の、松ほどつらきものはなし、逢ふて恨みは山川に、風のかけたるしがらみは、流れもあへず散る紅葉、ふみわけまよふ小男鹿の、戀ふ聲のあわれとや、忍ぶもぢづり誰れ故に、つらき思ひの數々を、一人かもれん淋しさに、宿を立出て眺むれば、何處も同じ秋の夜の、ねざめ淋しき手枕に、ちりのみ積る言の葉を、衾と思へ山櫻、花より外に知る人もなく、今の我身こそ難波の沖の捨小舟、よる白波ゆらのとう、渡る舟人梶を絕え、行ふも知らぬ戀の道、誰がいつの世にふみそめて、今は我身も秋の夜の、月にむら雲棚引て、へだてし中になりにしは、君が心ぞ淺じなの、小野篠原忍ぶれど、餘りてなどか戀しらに、露のなさけもあれかしな、此夜の外の思ひ出に、いつか一夜は逢坂の、關を越えても淡路島通ふ千鳥ともろともに、いふにいはれぬ亂れ髪、誰が取り上て吳竹の、伏見の夢の結ぼられ、いとゞ思ひの増鏡、曇りしむれの晴れ間なく、こがるゝ君に難波潟、みじかき芦のふしの間も、逢て此世に永らへて、何を便りに住の江の、岸による波よるさへや、夢の通ひ路絕えぐし、君をあい見んとばかりにて、人傳ならていふよしも、嵐の山の山おろし、烈しかれとは祈られど、人目も草も枯れ尾花、招く袂に荒磯の、波の枕もかさゝぎの、渡せる橋のありながら、渡り兼たる我涙、袖に包みて忍ぶれど、忍び兼たるはかなさは、遂に浮名の立田川、水の流れと身の末は、知られぬものと知りながら、などか心の替りはて、逢はぬ昔にくらぶれば、憂しと見し世ぞまゝならめ、げにや此身はうと濱の、うと〳〵數もあり〳〵つゝ、積る思ひは百々しきや、古き軒ばの忍ぶにも、人目の關にへだてられ、後や前なる玉章も、書つくされぬ言の葉は、猶餘りあり明の、つきぬ恨みをいかにしてまし。

右は、過ぎし年甲府に住居しける折、或る老人より安政年間米艦浦賀に來りし時の聞書きとして、いろいろの事記せる一つの卷を借りて見たる中にありしものを寫し置きたるなり。

今は女子とて外國は物かわかなれど、昔は外出さへしたる事なき女子の身の、其夫の長崎迄も行くと思へば、此世にては早や逢はれぬ樣に思ひ、一すじに悲しみしあまり、氣の違ひて遂に座敷牢へ入れられ、なほ〳〵思ひのあまりて氣はちがへど、常のたしなみしほらしく、百人一首によせて良人を思ふ切なる思ひのたけをかきつゞりて、はる〳〵送りしかと思へば、なか〳〵に哀れ深くやさしさのかぎりにこそ。

電話交換手

東京電話交換局電話課長　若目田利助

世の中に女子の職業も多くありますが、成可男子と競爭しない方面に向つて手を下す方が得策かと考へます、今日では交換手の位置も上りまして、女子判任官に採用されて居るものもあります、此業に從事するには格別の學問は要しませぬ、高等小學二年卒業位の程度で差支はありませんが、只視ることゝ聽くことゝが發育して、言語が明晰になくてはなりません、其他多數の人と人との間に起る應接を取次役てありますから、敏捷にして諸事丁寧なる人てなくてはなりません、一日の間には種々な人から交換の依頼を受けるのてあつて、其申込の中には氣六ケ敷い人も出るし、八間敷屋もあるので、規則上には交換手とは話しをしてはならぬとあつても、繼ぐことが遲いとか早く出ないとか云ふので、種々の苦情を受けることもありますが、これはよく丁寧に取扱ひて、怒るやうな人には愈々丁寧懇切にして、相手の氣分を和げるやうな心持ちて事務を取扱はねばなりませんから、常識がよく發達して、動作が敏捷な女子てなくては役に立ちません、年齡は十三年以上二十年以下て、夫のないものを撰んで採用して居ります、何故夫のないものが必要なかと申しますに、家庭を持つて居るものは、家庭用務の爲に妨げが多くて、仕事に差支を生ずることがあるからてあります、業務時間は七時間て、夜勤の時もありますが、一時間毎に十分の休みがあります、給料は日給二十錢以上六十五錢以下として、見習中にも十五錢の手當を給し、一ケ年に三度賞與を與へ、務を罷めた時は勤續年數に應じて相當の手當を給し、種々優待方法を作つて居ります。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲貧兒（一等）　群馬　伏島たき子

或日の暮方、左の肩に麻の袋をかけ、右手に竹の輪を廻しながら、村の雜貨店へかけこんだ一人の童がある、年の頃は十一二、身には襤褸の袷を着て、顔は垢に塗れて、薄寒そうに見えるが、そのきよろ〳〵した眼のうちに喜の色を浮べて「おくれ」と一言、袋と共にさし出す若干の鳥目、あはれ、父が車を引いてゐるか、母が機をりてゐるか知らぬが、南京米一升に挽割五合、これが一日の勞を忘るべき親子うちよりての樂しき夕餉の料になるのか、悠然なと顔をまもれば、その子は一層嬉しげに、袋をも輪をも先のやうにして、ヒユー〳〵と口笛をふきながら一目散にかけだした。

▲選者曰　着眼もよく、文も面白い

▲母の面影（二等）　京都　花輪余志野

宵の程よりいたく肩つまりて心地あしきに獨りさすりなどしつゝ夢路に入りしが、いつしか母のみそばにあり、己れの肩とりたりといふに、さらば少しもみやらむとて老ひやつれたる御身を起し、慈愛のみ手を我肩にふれ給ひぬ、あまりのありがたさにいなみかね、嬉し涙に袖ぬらせしが、ふと心付けば壇上にかゝげたる燈明のかげあはく、母の位牌のみ白く見えていと淋し、あゝまた思ひねの夢なりしよ。

▲選者曰　眞に靈ある心地す

▲凄じき日（三等）　鎌倉　中隈富士子

青風涼しき窓の若楓の間を通して濃く青々と延びて見えるのが麥畑、中に點々黄なのは取殘された菜花であらう「アレ見なよ、又雷が鳴り出すべい」と指さすを見れば、今しも觀音山の彼方より襲ひ來る黒雲恐ろしと見る間に、さつと吹き來る一陣の風、俄かに一天掻き曇り、鳴神おどろ〳〵と轟き渡り、蕗のと程の雹を持つて來てとたんの屋根にぶッつかる凄じさ、俄かの事に午睡の夢を破られた犬が驚き騒ふて縁の下に飛び込んだ。

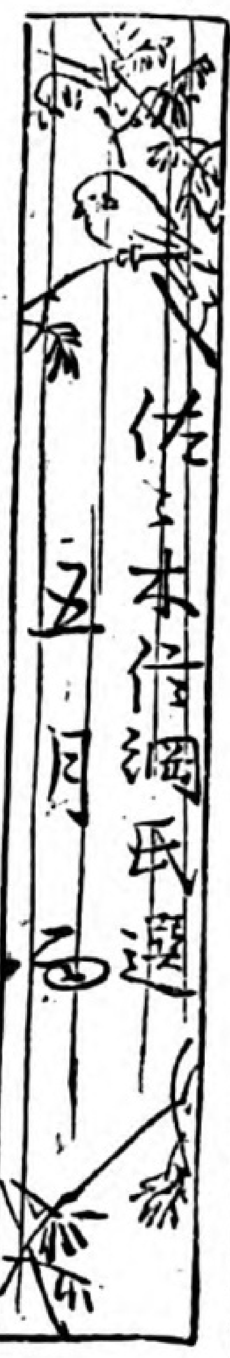
▲選者曰　[illegible]にかぶれたもの

▲[illegible]　愛知　市川はな子

雲雀の聲にあこがれて野にさまよひ出でつ、摘草しける少女に道問へば、手にせる草花もて蝶の行方を指しけるも折から雅びたりや、風のあたり陽炎もえて、慕ひ來し蝶はおなじ色なる菜の花にまぎれ入りぬ、春風に袂吹かれて立ちたる吾は、さながら輪の中の人なるべし。

▲女夫鴉　青森　茂呂その子

今朝よりの嵐吹息まず、益々荒くすさびて、枝折の音凄まじ、氣づかはしさの餘り、背戸に立出見れば、まだ芽萌せぬ高いどろの木の枝に、鴉が二羽カアとも啼かず、小さくなりて己が巣を守つて居る、其心の内には早く無事に、風の治まるやうにと、天に祈てるだらう。



天　福島　爲田よしの

たらちねか都かへりのはなしつきす日はくれにけり五月雨の窓

▲評　イルミネーションのうつくしさ、歌舞伎座のにぎはしさ、話はそれよりそれと盡きせざるべし。

地　名古屋　名取照子

小田卷の糸とりいでていつれ〳〵にしをりをあむさみだれの小窓

▲評　女らしくやさしき歌。今より後もかゝる境に心をとめてよみいで給へ。

人　弘前　笹田正野

迷ふ子の住家をとへはたゝなきぬさみたれそゝくこの夕暮に

▲評　梅雨と迷子との配合新らしくあはれにきこゆ。

○秀逸

五月雨の川の浮草見て思ふ國を見出せし人もがなやと　三重　西山敬子

▲評　着想奇警

子供等のあかつき衣いかにせんはろゝまもなし五月雨のあめ　岡山　清水梅子

▲評　下句原作はろゝ空とも見えぬ梅雨

花散れは訪ふ人もなき野の庵にさひしさそふる五月雨の音　横濱　植野秀子

幼子をなくさめかねつ歎反古を裂きて鶴折る五月雨の窓　岡山　武田須磨子

○甲

客人の旅のつれ〳〵吹きすさふ笛に更け行く五月雨の夜半　岡山　道村ひで子

▲評　一二句あたらし

ちさき手に外面ゆびさしせかむ子をなためわつらふ五月雨の頃　鎌倉　中隈富士子

千曲川わたす舟橋ゆら〳〵とあやふくなりぬ五月雨のころ　長野　高橋きよ子

さしなみのとなりも遠き心地してとはて日をふる五月雨の頃　愛知　木原貞子

さつきにはことなる庭のなかめかな青葉にはえてぬるゝ梅の實　津　中島かす子

稚なりて子ら學ひやへやりつれと濡らしやしぬるさみたれの雨　群馬　伏島たき子

友かきは宿を訪はんとおりたては又もいふせく五月雨のふる　埼玉　加藤美代子

つれ〳〵にかきなす琴の音たにもうちしめりけりさみたれのころ　京都　渡邊豐子

ふりくらす窓にひしりの文見つゝきくもしつけき五月雨の音　京都　花輪余志野

五月雨に淀の川舟苦かけて京の雅人は泯花にくたる　甲府　中川梅子

五月雨や水の輪あやに亂れ行きてさゝなみ池の浮葉を越しぬ　青森　吉田安子

今日もまたいふせく送るさみたれに聲たのしけになくかはつかな　岡山　河本久米子

朝な夕な心なくさむ遠山を見ゆるかと見る五月雨の空　長野　白田いち子

月影をいつまちいてん今日もまた軒端なくらしさみたれの空　大阪　大串菊枝

晴間なくふるさみたれのつれ〳〵を慰めかぬる夕まくれ　栃木　檜山いつ子

何となく物なつかしき五月雨の夜中に聞きつる時鳥かな　三重　莊司種子

○乙

五月雨のけふもふろらし絶えまなくむかひの山に霧たちのほる　青森　棚田滿智子

さみたれに水嵩まさりて新墾の池あやふしと里人とよむ　愛知　市橋幾子

をやみなくふる五月雨にけふはしも昔語りの種もつきぬる　長崎　林田鹿子

なやみなき雨のいぶせさ忘れけり友のおとなふ五月雨の宿　栃木　檜山ちえ子

學ひ舍に通ふをさな子なやむなりさみたれはれぬ道のぬかるみ　堺　全田つるえ

つれ〳〵に窓うちあけて見てあれは郭公なく五月雨のそら　京都　山本尾佐子

かちわたる淺瀬もわかすなりにけりさみたれまさるこの夕まくれ　北海道　加藤はる子

なやみなく降る五月雨のしふきうけて軒のしのふの乾くまもなし　長岡　阿部芳子

さみたれに水かさまさりし大堰川[illegible]おどろかすせきの水音　京都　磯谷陸子

五月雨にこの山里は人絶えて友のたよりもうせし今日かな　宮崎　野崎惠武子

音もせす降る五月雨に窓あけてみる間もまたすほとゝきす　京都　山本收子

花は散りぬさひしき春を葉櫻に今日もひぬもす五月雨そゝく　群馬　木暮千代子

そらのみか心もいたく打しめり机にうとき五月雨の頃　函館　安藤嘗榮子

五月雨に聖の小川の水まして學ひ子わたる橋のあやうき　愛知　下郷すゑの

つれ〳〵の友と調ふるつま琴の音もしめれる五月雨の頃　兵庫　下岡松枝

うなゐらかそとの遊ひもまゝならすつれつれかこつ五月雨の頃　東京　土師剣根子

五月雨の晴間いそしむしづの男の苗とる方にほとゝきすなく　岡山　西村長子

子供らかぬらしゝ衣のすそさへもほすひまもなし五月雨のそら　静岡　彦坂清子

谷川の清き流れも水まして濁かちなるさみたれの頃　長崎　葛蘇梅香

五月雨の淋しくそゝく夕くれる琴もしめりてほとゝきすなく　青森　大橋かれ子

郵便とさけふ聲こそうれしけれつれ〳〵かちの五月雨のころ　福岡　松村壽竹子

高樓に琴の音やみてあて人の眺むる外に月影もなし　福嶋　伊藤靜子

學ひやへ通ふ女の子の雨衣ほすひまもなし五月雨の頃　東京　麻生敏子

四日五日さみたれやます都なる博覽會やいかにあるらむ　山梨　小尾玉代

學ひやへ通ふうなゐのゆきゝさへ心にかゝる五月雨のころ　愛知　山内綠子

とふ人はたえて日なふるさみたれに傘のゆきゝそひまなかりける　山口　末田竹子

朝夕にゆきゝなれにしまなひやもつれなかるらむ五月雨のころ　靜岡　彦坂愛子

妹から人形の衣もぬひあきて友したはるゝさみたれのそら　愛知　湯淺とよ子

けふ幾日ふりつゝきたる五月雨に池の堤は見えすなりにけり　青森　田嶋正子

里川に子らのつくりてうけし舟なかれきにけり五月雨のころ　石川　廣野すて子

はるゝ日を待てとなやまぬさみたれに我冬衣かひてけるかな　三重　諸戸常子

浮雲の八重かさなりて日數ふり心も晴れぬ五月雨のそら　東京　田中まつ子

五月雨のはれまもまたて賤の男か千町の小田に早苗とゑらん　青森　三上秋子

小山田ハかゝしの袖はぬれ〳〵てかわくまもなし梅雨の頃　愛知　石川頼子

あふきては今日もふりぬとうらふれて[illegible]　津　中島千萬子

五月雨のつれ〳〵たれやゆかしくも[illegible]はせて笛の音そする　青森　大橋[illegible]子

ふりいてゝ幾日になりぬ我心むすはれにけり五月雨の頃　甲府　加藤はか子

月かけを今か〳〵とまちわふる心もはれぬ五月雨の空　靜岡　青木網子

海も山も八重九重に雲とちて何日晴るともわかぬ五月雨　北海道　山村幾代

山寺の鐘も聞えてなやみなくふる五月雨はものうかりけり　鹿兒島　藤野錠子

むらきもの心もともにしめるなり五月雨のそゝく旅の夕ぐれ　東京　小島幹子

さみたれのふるこの頃はかきならす琴の音までもしめりけるかな　京都　渡邊米子

夜もすから聞きつゝあかす五月雨は嬉しかりけりかなしかりけり　栃木　中村久子

今日こそは晴れなんものとおもひしに空またおほふ五月雨の雲　愛知　下郷きみ子

しはしたにやめよ五月雨心して小田の蛙の聲もつかれん　石川　原[illegible]子

釣たるゝ人なはかれり五月雨に池の村もたか見えかくれして　甲府　名取正代子

野に山に遊ひくらしゝ里の子もうみはてつらん五月雨のころ　茨城　福田喜代子

板葺の軒端たばしる五月雨のおとかしましき昨日今日かな　宮崎　山下武良子

新體詩

▲お賤なにする（二等）　青森　吉田安子

雨の降る日は山に行て
お賤なにする炭を燒く
晴れとなる日は市に出て
お賤なにする炭を賣る
炭賣て儲けた其の金で
お賤なにする芝居見か
色よき衣を求めては
お賤なにする嫁に行く

▲春の海（三等）　愛知　市川はな子

畑地をひらく丘の上に
春の浦和を眺むれば
菜の花くもり汐曇
おぼろに立ちぬ磯馴松
苫屋のあたり鷄鳴きて
睡るが如き磯の浪
吹く、としもなき浦風に
梢離れぬ白帆かな

天　福井　佐藤篤子
祝ふ今朝解くに下手なし笹粽

地　石川　小坂夏子
笑はれて又巻き直すちまき哉

人　長崎　内藤粲子
笹ながら貴人にも出す粽哉

十客

闌女より其角師まゐる粽哉　愛知　市川はな子
嫁の手に覺束なくも粽哉　廣島　白井政子
子になりて乳母か禮云ふ粽哉　北海道　加藤はな子
粽とく露に濡らすや新疊　京都　鈴村すゞ子
氣短なく友まれかばしや笹粽　橫濱　伊藤たみ子
たぎる湯にかをりゆかしき粽哉　愛知　下郷きみ子
やま出しの手際あらはす粽哉　愛知　市橋幾子
ほそ指にむすんて解いて粽哉　青森　茂呂その子
屈原のむかしをしのふ粽哉　山口　末田竹子
篠の葉の結目正しき粽哉　三重　莊司みや子

○

綠談を結び出したる粽哉　長野　白田いち子
若笹のかをり巻込む粽哉　北海道　山村幾代
大原女の賣り聲やさし參粽　京都　渡邊時子
大女の賣り聲高き粽哉　京都　磯谷澤子
豐かなる國の手向や君粽　北海道　加藤つい子
終り頃上手に巻けて笹粽　靜岡　里見ゆう子
食ひ始め坊かもしの粽哉　鎌倉　中隈富士子
老せぬや乳母が粽の其手際　東京　秋元小菊
故郷から母の惠みの粽哉　德島　小田信子
みとり子の使やさしき粽哉　橫濱　平月すゑ子
乳母よりの飛脚届いて粽哉　京都　今尾しな子
盆にさへ乘せ次に配る粽哉　石川　廣野すて子
粽巻く其人柄やし京そだち　京都　古川よれ子
食ふた數笑はれにけり粽殼　山梨　石田ひろ子
姉の結ふちまき見て居る弟哉　京都　池田美登子
初孫の出來て嬉しき粽哉　靜岡　荻原さだ子
初孫の使ひいかめし笹哉　三重　國井ひろ子
粽供子祝の床や稚兒鎧　青森　清水花子

▲選者吟

年寄りの巻いたと見へぬ粽哉
巻く家と知りつゝ配る粽哉

第十五 作歌募集
題　夏月
選者　佐々木信綱氏
規定　一人一首用紙は葉書
六月五日發行の本紙上に披露
天地人當選者に寫眞繪葉書贈呈

第十六 短文募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　總振カナ附用紙葉書
六月五日發行本紙上に披露
一二三等當選者に寫眞繪葉書贈呈

第廿六回 俳句募集
題　牡丹
選者　編輯局同人
規定　一人一句用紙葉書
六月五日發行本紙上に披露
天地人當選者に寫眞繪葉書贈呈

第卅三回 新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　短きもの用紙葉書
六月五日發行の本紙に披露
一二三等當選者に寫眞繪葉書贈呈

締切五月廿日限り

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京婦人は素顔を如何して美くするか

●顔の色を白くするに

新しき空氣と好き洗粉とは餘程効がある新しき空氣と好き洗粉は自然に皮膚の色が良くなります現に石鹼を多く用ひて居らる方がありましたが之れは美身料と言ふ方から考へますと實に無効なので御婦人方のお顔に石鹼を使ふ事が段々廢たれ其代り西洋に於て學理上から研究され近頃日本に於ても盛んに流行して居るは善良なる洗粉であります即ち顔や髪又た皮膚を洗ふには是非善良な洗粉を選んで用ひねばなりません。

●皮膚を美にする洗料

萬國中佛蘭西と我國に唯二つある世界最近の學理的研究の上に於て一番良き洗粉と申しますのは先づ二種よりほか無いのです此一種は佛蘭西のヴシングボーターと稱し又一種は夫れよりも更に優れる十一種の原料を集め最も新しき學理を應用したクラブと云ふ名高い洗粉であります此洗粉は新聞を御覽になる方は既に實用せられて居るでしやうが實に彼のクラブと云ふ洗粉は石鹼や又他の洗粉よりも美身料として餘程優つて居る品で宮中の女官方を始め貴族の御料として廣く歐米にまで評判されて居ります。

●如何にして色を美にするか

美を保つに新しき空氣は洗粉の如く何故に必要なるか

御婦人方は必ず毎朝少なくとも三十分位新鮮なる空氣を呼吸せられ朝夕クラブで皮膚を洗はれたならば決して澤山の化粧品や白粉を使はずとも色を美くしくしたり又た生生とした艶を添へたりする事が出來るのであります新しき空氣は健康を増して自然皮膚の色を能くすると云ふ内部から効驗のある美身法であるクラブの方は皮膚の表から美を加ふる力を以て居りますから兩方の内一方を缺いては美しくなれません此の美身法はクラブと新鮮の空氣に限るのである此の如き洗粉は他の洗粉の及ばない又石鹼などのまねの出來ない點が有ると云ふ事は恰も酸素の缺乏した空氣が美を害すのと同じて有ます

●健康は皮膚の美を増す

所が新鮮なる空氣を得るのは海岸か山野に出て酸素の缺乏した空氣を吐き出して新らしき空氣を呼吸するのである尤も都會の地では公園の樹木の多い所が一番宜しいのですが忙しい御方はそー〳〵毎日お出かけはむつかしいでしやうから朝早く太陽に向つて深く呼吸せらるゝが一番ですそうして常にクラブと云ふ洗粉を使はれたならば知らず〳〵の間に少しづゝ色が白くなります然し

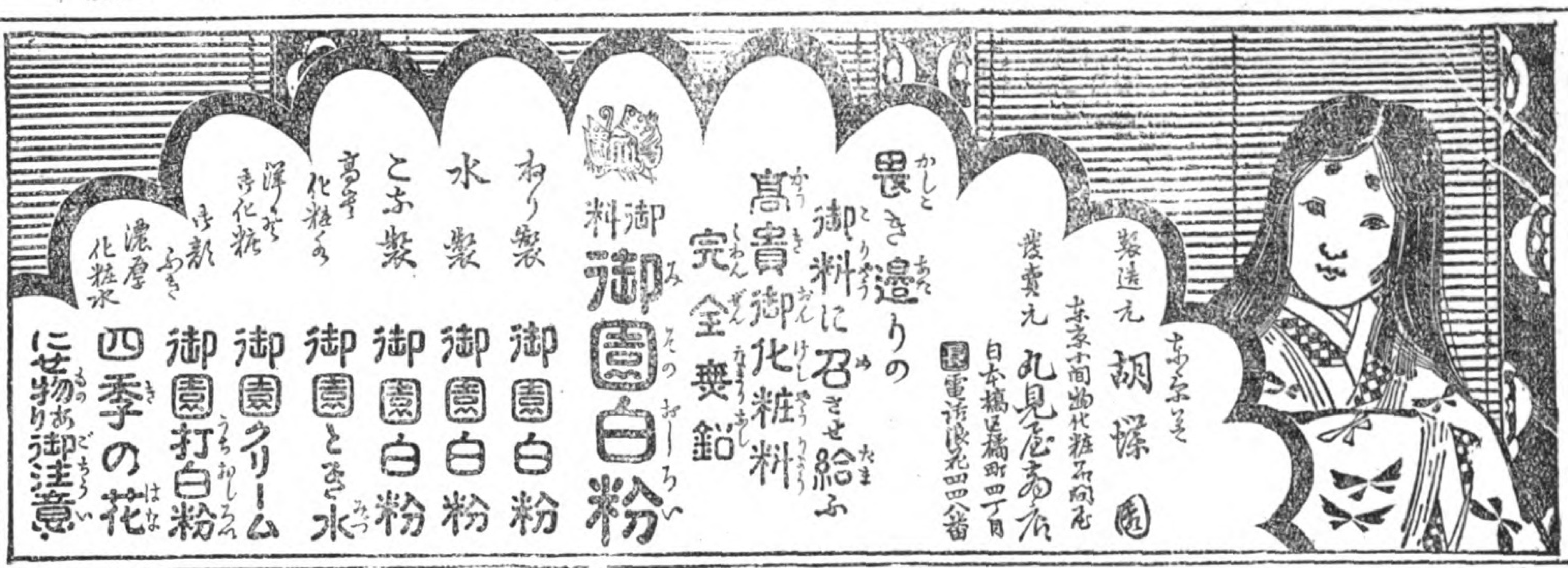
●印度人や烏を白するのでは

ない唯だ美少年美少女時代の色は生理上必ず年毎に段々と艶を失ひ又皮膚を悪くするのでありますから如何なる方でもお子供の時は顔の色が今よりもつと美しく又白くあつたのです夫れだから花の如き少女の艶や雪の如き少年の美を再び現はすのが何よりの必要て有ますそして美身術の目的は皮膚の艶を永く保たし美しくするのが第一て有ます

●洗粉は美身術に効かある

前にも書てある通り帝國化粧品倶樂部のクラブは日本一の洗粉で有名な中山太陽堂や三越呉服店を始め各化粧品店にても賣て居りますが此洗粉は「コーヒサジ」一ばい位の分量を掌の中に入れて水か湯を倍程加へ薄く解いた物を以て顔や髪又は皮膚等を良く洗ふので顔に美き艶を現はす事は一二回試用すれば直ちに分ります

此美身術を知らぬ婦人があるだらうか



御半ゑり新もよういろ〳〵

丸善

日本橋區堺町通ふきや町　電浪一二七〇

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　信略號（キハク）又（ハク）

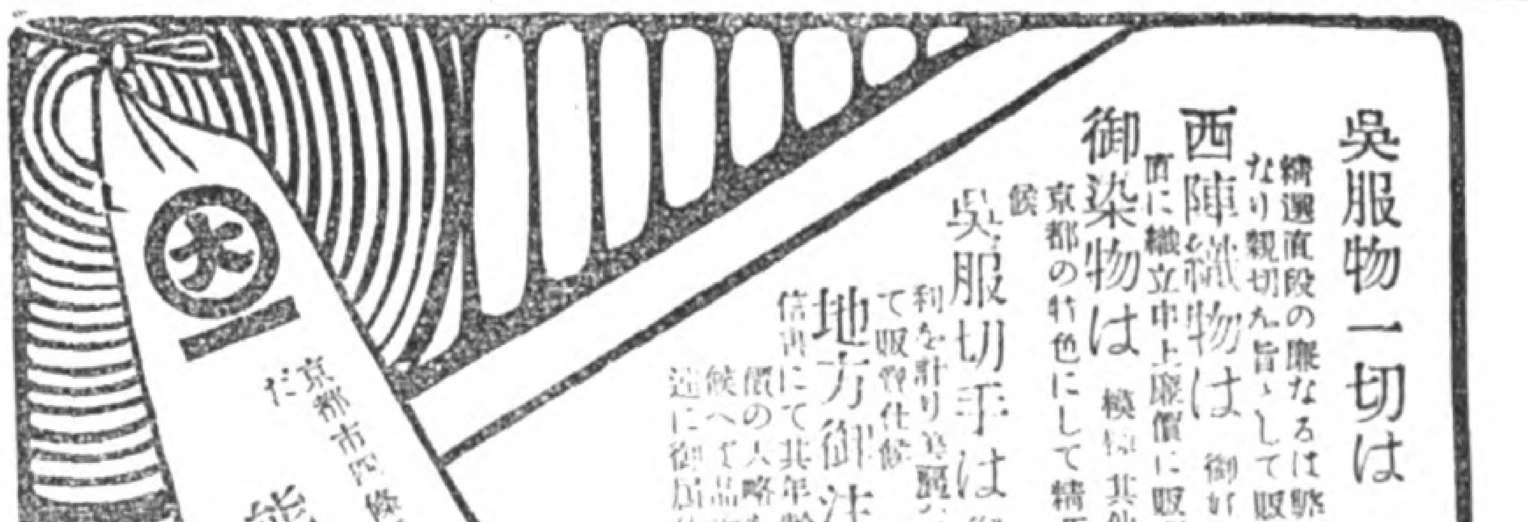
最上醬油　キハク印

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印

醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四



昨年十月特賣發表の際は幹事諸氏の一方ならざる庇護を蒙り全國各地の淑女令嬢間に本書の流布したること幾万を以て算すべく全體に於て無慮七万有餘の大數に上れり斯の如きは實に空前の盛事にして本書の名譽弊社の光榮之に過ぎたるは無し乃ち茲に感謝の誠意を表し謹んで禮辭を白す

今回の東京博覽會は戰後第一回の博覽會にして或意味に於ける戰捷紀念博覽會なるを以て、弊社は之が永久の紀念品たらしめんの旨趣により、此際日本家庭百科事彙一万五千部を増刷し、表装に美術紀念徽章を加へ特價を以て遍く之を江湖に頒布せんとす愛國婦人會々員諸氏にありては戰時中に於ける功勞の多大なりしを思ひ敬慕の意を表せんため前記特價を更に割引して、一時拂六圓貳拾錢月賦拂六圓六拾錢とし特價以上の特價、破格以上の破格を以て高需に應せんとす但し該特別割引は他に應用せざるに付、御注文の際此廣告切抜き御封入あらんことを乞ふ。

博覽會紀念販賣

挿畫入見本　御入用の諸君は郵劵四錢封入御申越次第進呈す

文學博士　芳賀矢一
文學士　下田次郎
先生編纂

遞送料は東京市内金四錢市外三十二錢（臺灣清國廿錢増）

大小項目約三万　裝釘善美四六倍判　紙數五百餘頁　挿畫彩色　石版卅一枚　精巧木版約千個　（一時拂金六圓五拾錢）　着金順五月五日より送本す

月賦拂六圓九十錢　申込金壹圓五拾錢以下毎月壹圓八拾錢宛三回拂

●期限後は嚴に金拾圓に復す　但期限内と雖も印刷部數盡くる時は特別を停止す

百般の知識を網羅し、日常實行の方法をも指示したる本書は何人にも必須の寶典たること云ふまでもなけれども家庭の女王たり、家庭の中心たる婦人社會に向つては眞に一大福音を傳ふるものといふべし。本書はもと歐米に行はるゝ婦女辭典の精粹を抜き、本邦婦女に緊切なる事項を加へ親切丁寧に模範的家庭の要件といふ要件を悉皆説明したるを以て嫁入道具としては鏡臺と共に無くてはならぬ持參品にして、主婦にとりては時計と共に一日も見ずには居られぬ必要品也、兒育、教育、小兒は如何にして哺乳すべきか如何にして教育すべきか。玩具の種類用法遊の方法順序は勿論の躾方より心理教育の原理に至るまで平易丁寧に説明したる者は本書也禮儀作法

衛生、醫療　健康の幸福は如何に維持す可きか。姙娠、出産、産後の養生、月經等婦人衛生の各項目は勿論小兒の衛生疾病療養に就ては特別の注意を與へ、傳染病、精神病、呼吸器病をはじめ内外科の一切疾病原因、經過、注意應急手當等を親切明瞭に詳説したるものは本書也。

料理、裁縫、飲食の料理鹽梅日本支那西洋食物の養分獻立法より料理の方各種菓子の製法に至るまで最も明細に説明し、織物、帶地の産地、縞柄、色合選擇等の注意裁ち縫ひの仕方等を懇切に圖解を加へて詳述せるものは本書也。

装飾技藝　婦人美装具は如何なる種類あるか。寶石には如何な簪笄、櫛、指環は如何。香水、白粉の選擇は如何。織物、刺繍、造花、抹茶、香合、生花、等の流派方法等を最も懇切に、手を取りて教ふるが如く説明したるものは本書也。

音樂、遊戲、舞踏も亦社交上婦人の心得べき事にして、東西音樂の發達、異同、變遷及び樂器の種類、樂譜の讀方、奏樂の方法、遊戲舞踏の拋旋方法等に就て、明細に遺憾なく敍述せるは本書也。

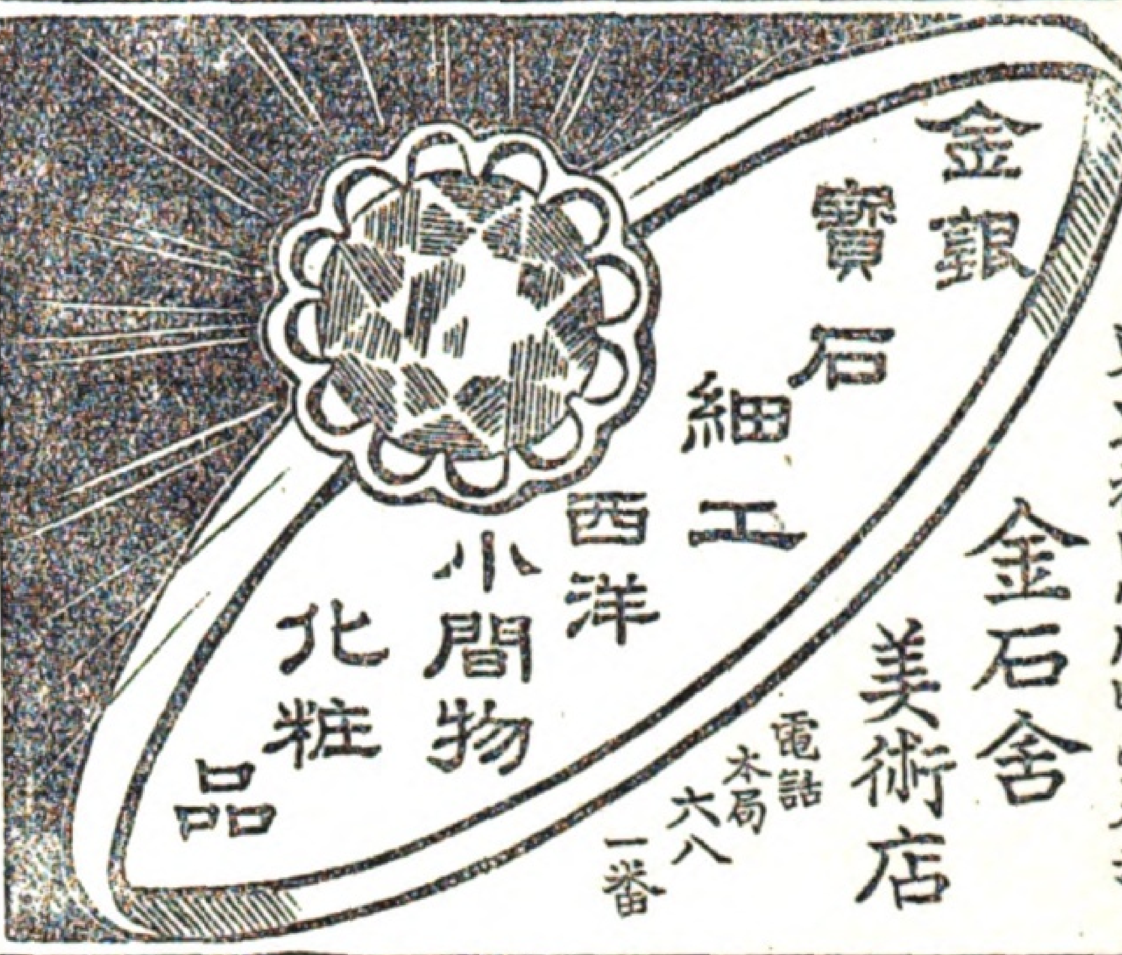
文學、美術　婦人の品性を高尚にする文學美術古今の詩歌文豪の略傳、作者の解題を始め繪畫、彫刻、建築、美術工藝品の特色作家等に就て文明的婦人の知らざるべからざる智識一切此を網羅し解釋したるものは本書也。

女子問題　二十世紀の一大問題たる女子問題とは何ぞ。家庭、社會、國家に於ける女子の位地、權利、要求は如何、職業は如何。歐米女子の現狀は如何。これ等の問題に就て最も確實に精細に講述したるものは本書也。

以上は特に女子に關する重要なる事項なるが其外歷史、地理、理化、博物、宗教、政治、經濟、軍事等容易に且適切に説明したるものなれば、娘としても、妻としても母としても、女學生も、女教師も看護婦も、小遣錢の一部を節倹して本書一冊を購ひ給はゞ、生涯の便利驚くべきものあらん。装釘の善美、繪畫の艶麗、贈品と賞品として乃至は單に家庭の飾物とし價格以上の價値十分なるべし

東京神田裏神保町六　電話本局一〇三六　發兌元　合資會社冨山房　郵便振替貯金口座五〇一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



金石舍美術店
東京神田小川町壹番地
電話本局六八一番

○銀側兩蓋之部　流行薄手形
價八圓半　瑞西石入向爪アンクル
價十一圓半　同惣石卷上向爪アンクル
價十三圓半　同裏三枚惣石卷上向爪
價十四圓　米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行薄手形
價三十三圓　瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓　瑞西十八金側中形紳士持
價七十九圓　米國製十八金中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金形18紳士持

商品案內　無代進呈

東京市京橋區銀座一丁目　電話新橋(二三三一)
伊勢伊時計店

工學博士平賀先生試驗證明

本品は黃金の延板を以て製し中身に純銀其他の重金屬を用ふ故

好評嘖々
ゆびわ類　時計鎖類　根掛簪類　貴金具類　眼鏡釦類

見本指環壹圓六十錢　時計鎖參圓九十錢　眼鏡貳圓九十錢　送料十錢　振替貯金壹貳九參

に頗る重くして美麗永年變色せざる等世間既に定評あり試給へ

東京日本橋十軒店
電話本局九十七五
土產商會

必ず見落して悔を殘し給ふな

女學世界

五月五日發行　第七號　正價廿錢　郵稅二錢

●安場男爵婦人の舊懷談

本號には豫定の通り
壹千圓の大福引
番號を摺込みたり!!

●壹等＝博多帶大島紬指環女持時計金帶止等三十本
●貳等＝絹張洋傘新御召夏シオウル秩父縞等四十本
●參等＝縮緬ネル紅維白毛布ハコセコ花色絹等五十本
●其他四等より十等まで總計一千本の景品あり

△婦人滑稽趣味（岩野泡鳴）
△軍人救世の內容（山室少佐）
△麥飯の効用（高木博士）

▲新戶部博士の家庭談
▲婦人博覽會瞥見記
▲お轉婆日記
▲女學生の缺點
▲アイヌの戀
▲流行の蝙蝠傘

本誌前金　四冊七十五錢(半ヶ年分)　八冊一圓四十五錢(一ヶ年分)　十六冊二圓八十錢　外に要郵稅

少女諸姉の好讀物

少女世界

五月一日發行　第七號　正價十錢　郵稅一錢
▲前金　冊卌八錢　八冊七十五錢外稅

口繪
●藤の花　彩色石版
●初夏の園　彩色石版
△珍しき美しき寫眞數葉

●あやめ婚（巖谷小波）
△小女訓話　賢人（思案外史）
△悧巧娘（西村渚山）
△少女心得（棚橋絢子）
●燕の話（木村小舟）

造花の栞（白崎やを）
家事の稽古（星常子）

●子供を詠だ歌（信綱）
●小女に與ふ（花袋）
●地久節（記者）
●りこうな犬（直人）
●ジャンダアク（笠峰）
●牽牛花の栽培（五百歷）
●寶玉の雨（夢月）
●通俗竹取物語（夕風）
●文子の日記（野の花）
●女俠姬（春浪）

△少女會館
△學藝　△娛樂　△談話　△教訓　△顧問　△藻詞

東京本町　博文館

美術縮緬帯地本舗
玉川屋
電話…五八六

CHEMIST SOAP

●消毒用　●化粧料
ケミスト石鹼

顯れまーしゅ
世界無比の石鹼

全國到る處の藥種店及び化粧品店にあり

發賣元
東京日本橋區本町四
嶋久商店

和服も縫へる
家庭向婦人用
シンガーミシン

廉價月賦大販賣
更に特別減價　即金賣

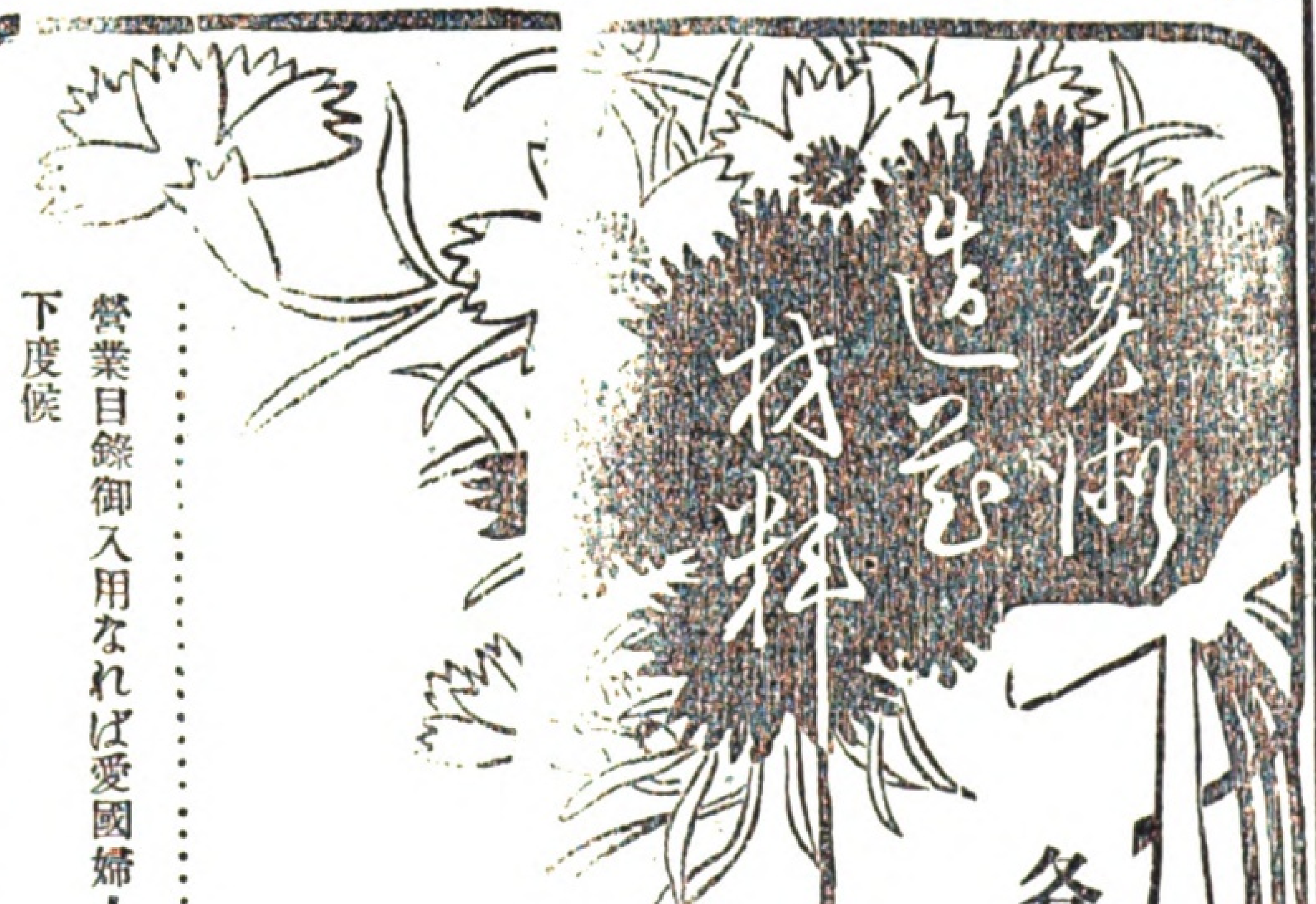
無報酬出張教授（東京及横濱の御婦人のため）
（他地方及京濱の御婦人にしてシンガーミシン裁縫女學院へ入學の方には同院の束修及月謝を弊社にて負擔す）

▲明細書　御申越次第無代送呈

申込〆切期日近し

シンガー裁縫機械會社
東京支店
京橋區銀座通三丁目
電話新橋三四六六

ミシン種類　十三種
金四拾八圓より百四十三圓迄
▲申込金　參圓
▲月賦額　五圓均一



各女學校御用
シホン
附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話(長)浪花一六四三番
振替貯金口座四九七番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

阿部彦四郎商店
淺草茅町淺草橋際　電話長下谷一九二三

東京勸業博覽會場

弊店出品は第一號館内金物部に
富貴竈
富貴風呂釜
式
富貴暖爐
輕便料理ストーブ
鐵瓶湯沸類あり
○外國館内には琺瑯器　洋食器
石油瓦斯焜爐
即賣店は不忍辨天前にあり
紀念品進呈

寶の大王
第五博覽會三等賞受領
縦銅製五徳寶良改良桶箱風呂各種出來有
銅製改良風呂釜各大小出來有
圖面定價表御入用節郵稅三錢御送り御請求

發賣元　東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六番）
銅器物問屋　南部鐵瓶販賣　石川商店
代理店　京都柳馬場　春井喜助

諸官省御用　博覽會寶店
確實　製造大販賣　御小賣
夜具蚊帳　夏冬ざぶとん
●品質保險附●正札引なし●縦覽御随意
東京神田區表神保町　矢田商店　電話本局長二〇一八
市内無賃配達
不忍池畔雪見橋近傍　矢田出張店
商標御注意
市内無賃配達

御料　カスガオイル
紳士淑女毛髪用

◎到る所の小間物化粧品店にあり

東京勸業博覽會第三號館出品及不忍池畔雪見橋際販賣店新設仕候
[illegible]りが神田栗のまん限
本店　神田小川町通り（電話本局二八五三）及赤坂田町五丁目支店
出店　新橋博品館階上　婦人博覽會内　横濱出張店横濱館

高等香油　チエリーオイル
紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さらさらとして水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大流行せる彼の束髪用として非常に高評を博しつゝあり
定價入十五錢、四十五錢、廿五錢（送料各十錢）
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり
發賣元　東京日本橋區本町二丁目　高橋初次郎　特電四一二三番

專賣特許　安樂椅子廣告
賜宮内省御買上之榮
於五二共進會銅歩牌受領

○安樂椅子は高尚優美にして座敷用に適し且つ堅牢にして折疊自在なれば又至極便利なり
○安樂椅子を平素使用すれば自から姿勢を矯正し殊に胸部背部腰部等の諸病を未發に防ぎ衛生上缺くべからざる用具なり
○安樂椅子は長時間の事務を執る方又は御婦人方の裁縫及び觀劇宴會等に使用せらるれば頗る愉快を感ず
○定價並品金一圓廿錢より以上各種
但裝飾上掛は御好次第別に代價を申受く
東京日本橋區兩國元柳町廿八
製造發賣元　加藤商會
市内及地方特約販賣希望者は御來談乞ふ市内は御一報次第多少不拘持參可仕候

最新着荷
夏季用帽子
及手袋夏ショール小供帽子
其他新品多數
東京神田區小川町通　裏神保町一番地
中久商店

五月一日より十五日迄
夏衣大賣出し
よせきれ見切反物日日新品差加へ申候
日本橋通四丁目
松屋呉服店
牛山武兵衛
電話本局六〇八　七一六

消化新藥
胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、而して胃腸障害の内、澱粉不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を収め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す
醫學博士　井上善次郎

高峯博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有することは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種患者に毎にこれが服用を勸告する者なり
醫學博士　栗本東明

專賣特許
乙女くけ臺
◎各女學校裁縫教授先生方より充分なる御試驗を受け女子裁縫實用器具として何れも非常なる御賞賛を蒙むりたり
定價　特製七拾五錢　松印四十五錢　竹印卅五錢　梅印廿八錢
◎普通小包料　貳個迄金八錢　壹割増　郵券代用

製造發賣元　堀口商店
東京神田栄町十一

登録商標

ゴム裏雪踏
●發賣元　東京市神田區上白壁町九番地（電話本局貳千五百五十番）今井商店
●販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり（近頃粗惡なる類似品あり商標に御注意を乞ふ）

補血良劑
ヌポール無臭肝油
補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして少しも惡臭を存せざるのみならず
飲用に適すに清快なる香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服用する事を得べし
○品切の處漸く今般新荷到着仕候間陸續御愛用ヲ乞フ
東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
（電話本局特四一九一　電話本局三〇一八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

專賣特許第一〇三三五六號

家庭の主人

米精洗除砂器　一名國益米磨桶

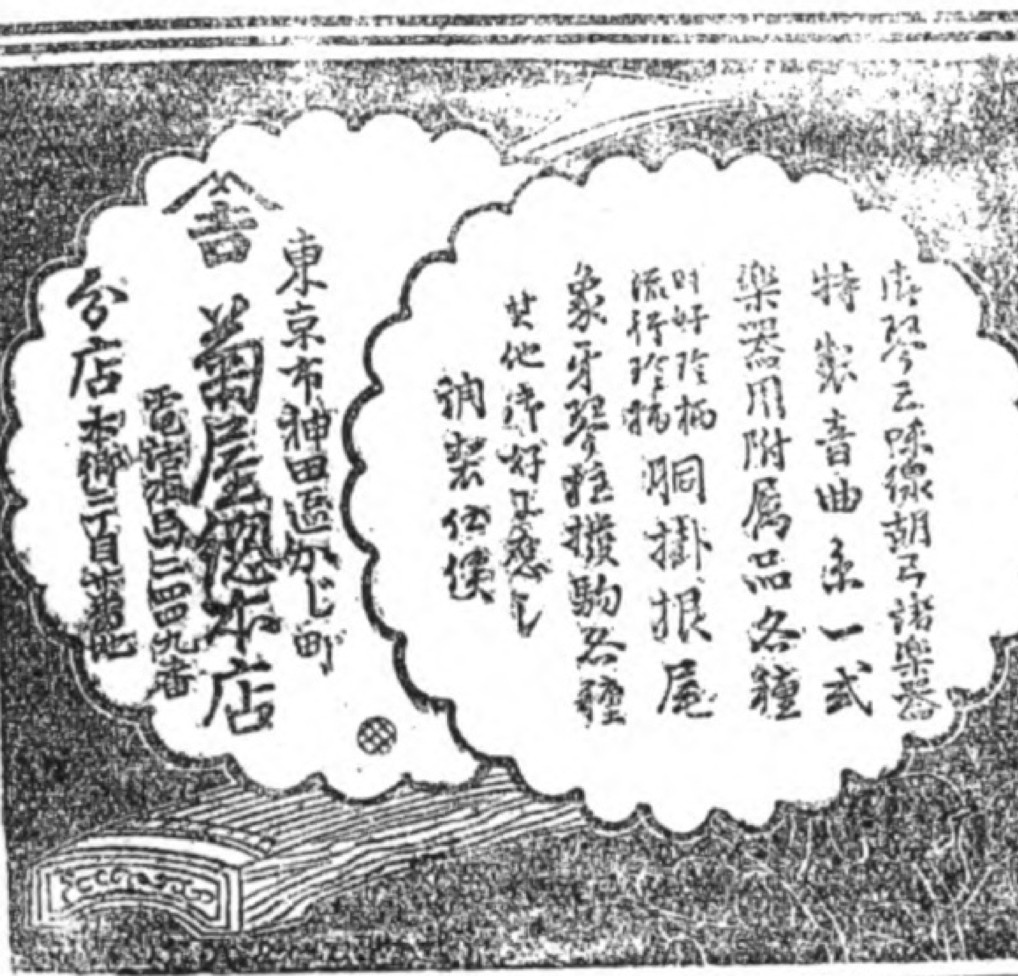
此米磨桶は弊店多年苦心研究の結果發明致た物で在來の器械の如く不親切の製作ではありません其構造は圖の如く全部金屬製にて之に錆止を施し堅牢優美の製作なれば永久毀損の憂なく至極輕便なれば幼童にても容易に使用する事を得べく又衛生上にて驚くべき効あり即ち何程の混砂白米にても美麗に砂糠を磨ぎ流すを得れば歯及び胃腸を害する事なく如何なる嚴寒中と雖も手を水の中へ入る丶事がありませんから誠に樂に砂や糠も美麗にとれます又盛夏中でも飯の腐敗することなどありません白米が碎けたり誤流することがなく時間も要りませんから經濟の點に於ても良實器で御座います何卒御疑念なく寸時も早く御試用の上家庭の大王と御高評を給はらん事を希上候

定價大形金一圓七十錢　三升以上七八升磨
小形金　一　圓　一升以上三升磨

代價表は御申越次第進呈可仕候

東京市下谷區御徒士町一丁目五十五
製造發賣元　早川海次郎

東京市淺草區高原町二番地
特約販賣所　仙石商店



東京勸業博覽會第一號館第十四部出品

編纂主任文學士下田次郎氏

女子教育

第四巻第五號　五月一日發行　定價拾錢

我國婦人雜誌中最も程度高く讀みごたへあるもの

發行所　東京市神田區錦町壹丁目十番地　明治書院

◉婦人の日常生活法

村井弦齋

●月經時は何如に過すべきか

月經時の衛生法は私が申上げずとも、醫師の訓戒をお守りになればそれに越した事はありません

たゞ一つ私どもの家族が用ゐて居ります「月の帶」と云ふ物があります

これは舊東京慈惠病院の産婆で有名な山田逸子が歐羅巴へ行て西洋婦人の用ゐる月經帶を調査し日本婦人に適する樣に改良を施し新に拵へたものでス此の「月の帶」はゴムと伊太利ネルで出來てピンで留めますので極く輕く、腰の工合も自由で大層都合が宜いそうでス

右は村井弦齋先生が婦人世界に紹介されたる一節にして現に本品の効用は月經時に使用すれば各種の生殖器病を豫防し往來、運動、起居等婦人の動作を快活ならしむるを以て貴婦人、令孃、教員、事務員、女學生、看護婦、女藝人等には缺くべからざる品であります

赤白帶下の強き人、陰部に惡臭を發する人子宮病を脳める人等には最も妙也初めて月經になりし令孃に頗る適當す俗に冷へ性と唱へる婦人常に用ひて腰を温め子宮病を豫防するの効があります

正價は(甲)が七十五錢(送料四錢)(乙)が四十五錢(同二錢)郵便爲替又は切手代用一割増て御注文あらば早速送ります發賣所は東京神田猿樂町二丁目資生堂藥局であります

日本政府登錄濟

ブーケムスクオイル
ブーケムスククリーム
ブーケムスク香水
ブーケムスク煉水白粉
ゴーケムラブ化粧

日本輸入一手販賣
ガマ印歯磨本舖
內外石鹸化粧品卸商
東京市日本橋區馬喰町四丁目
亀岡亀王堂

調劑が正確迅速にして藥品の純良なるは藥局の特色あり

醫家處方調劑

東京淺草橋際榮町四ツ角
尾澤良藏藥局
藥局主任藥劑師　船橋安太郎
電話下谷千六百〇二番

しらが赤毛の人に告ぐ

○二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黒き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髮中に硫黄質を含めるものにて此の硫黄質と液劑と毛中にて化合酸化硫黄となりて黒色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

東京京橋本材木町三ノ四
毛染所　岡田藥店

新流行新意匠　小間物

地方ハ目錄御報知次第送呈

破格正札付

新橋際博品館內支店
小川町東明館內支店
帝國五二館內支店

東京神田區須田町本店
三井屋商店
電話本局二〇七六番

東京勸業博覽會第一號館小間物組合出品部出品及婦人博覽會第二號館出品即賣

第五回內國勸業博覽會褒賞受領

▲正定價引なし

營業品目
特許竈各種●特許据風呂
特許テンピ●特許水焜呂
實用暖爐●鍋釜品々

日本橋區蠣殻町二丁目十五番地
神田泉町通松永町十八(電浪一一七七番)
名和本支店

美術金屬諸寶石

全銀　時計　寶石　指環　新品多數

精巧確實　婦人裝身具

東京神田區須田町六
中村時計店
デンワ本局一〇九〇

東京博覽會第一號館化粧品組合內出品

懷中要藥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京勸業博覽會

高等御婦人用小間物各種

美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

澤田治助

長電話浪花二五六九番

第二號館彫工會內出品

西洋酒罐結食料品

清酒壜詰　世界長　御進物用美麗箱入

最上清酒

世界長は內務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり

壜詰　一升入　四合入　貳合入　一合入の四種

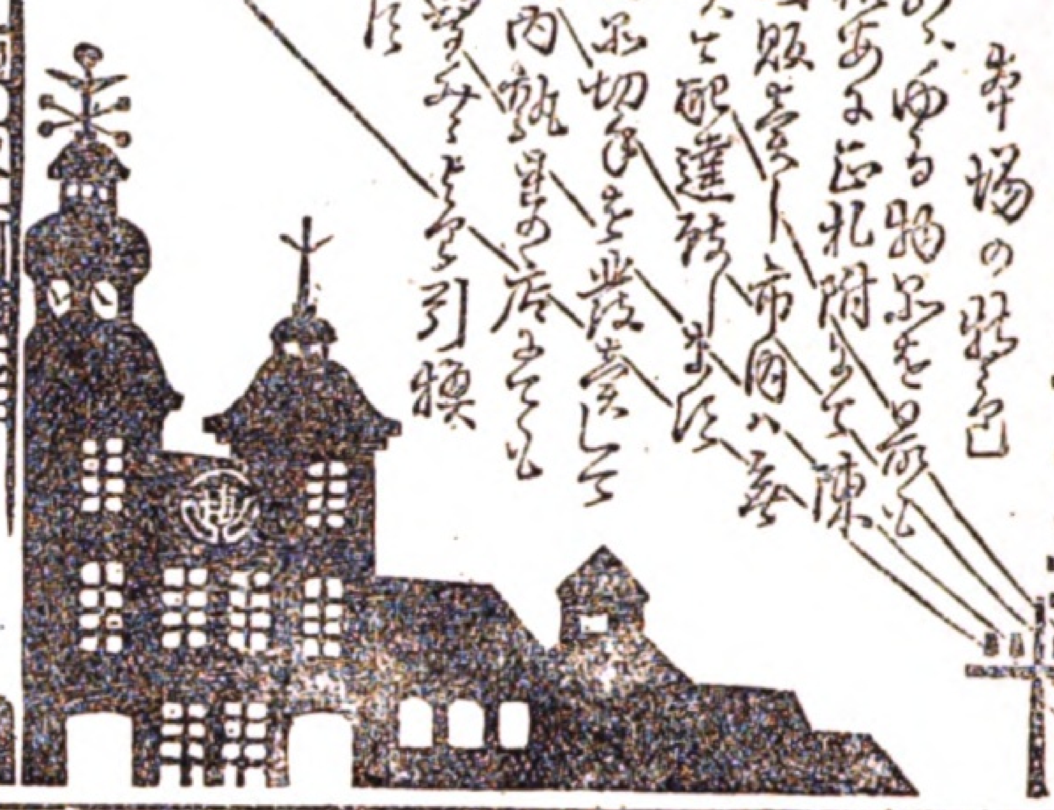
東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）

發賣元　高橋商店　電話浪花一五六一番

東京勸業博覽會第二號館酒類ノ部ニ出品

日本第一の大勸業場

本場の特色
あらゆる物品を最正
格なる正札附にて陳
列販賣し市內八ヶ所
に配達所を設け
物品切手を發賣して
館內孰れの店にても
使用するを得引換
ます



東京新橋角　帝國博品館　電話新バシ一六五二　三六六

胃病良藥　太田胃散

從四位淺田宗伯先生直傳　淺田飴

たんせきに　淺田飴　空腹に　めし

良藥にて口甘し

定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す

本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀內伊太郎

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町　株式會社　十五銀行　電話新橋 三〇番 一五三〇番 三一九三番

同日本橋區新藥物町　同　日本橋支店　電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番

一定期預金　六ヶ月以上年五分

一當座預金　日步七厘以下

一特別當座預金　同　壹　錢

別染めりんす　友染　き物　袴柄

おだわや

人形町通　住吉町　赤のきせん

東京日本橋區通三丁目

第一生命保險相互會社

電話　本局二三七三　本局一七三七

第五卷第五號　五月號　五月一日發行

女學雜誌　日本の家庭

◎遊戲主義（父母と教育者とは必ず一讀せよ）記者

▲家庭重寶記（千代廷）

▲家庭に注文（樂春）

▲自治の精神（加藤）

▲造花の話（志水靜子）

▲青葉若葉（そまびと）

▲季節料理（中島鎮子）

▲子供の栽培　女大講師三宅花圃女史

▲通俗教育問答　學習院教授大村仁太郎

▲日本の家庭の將來　女大教授麻生正藏

▲親無き後の兄妹　竹貫直人

▲家庭と掃除　醫學博士遠山椿吉

◎初夏（彩色石版刷口繪）柴崎美方女史筆

▲母しらぬ子（紫英）

▲多忙の幸福（岸本）

▲子供の想像（田村）

▲愛らしい子供（參觀子）

▲良妻君（西村諸山）

▲落花生の菓子（ゆふづき）

定價　一冊金十二錢　郵稅一錢　十二冊前金壹圓卅五錢（見本有合號金五錢にて呈送）

東京神田表神保町　同文館

ホワイト印裁縫ミシン

構造堅牢◎使用便利◎運轉圓滑◎外觀美麗

輸入元　東京神田今川橋際　横濱市元濱町二丁目　古屋商店

OY

夏物新荷到着

婦人洋服地及附屬品並ニ袴地。帽子。造花。リボン。洋櫛。ショール。日傘。レース。手袋。沓下。ハンケチ。其他化粧品洋小間物一式

婦人洋服裁縫仕候

八木屋號　東京麴町區二丁目　大國市藏（電話番町七四二番）

新着荷

御婦人用夏肩掛各種

新形帽子

リボン造花

裝飾品種々

牛込神樂坂下　朝日堂

誠實廉價

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本一婦人雜誌の内容御覧

婦人世界

五月一日發行　二巻第六號　一冊拾五錢郵稅壹錢五厘　六冊郵稅共九十錢

◎口繪◎彩色書三枚◎名家若夫人◎名家令嬢◎各女學校の優等卒業生總代◎新婚寫眞
◎藤を詠じたる名歌評釋
◎私の感心せる女學生　呉氏
◎婦人の眼につく博覧會
◎小說(苦學生)西村醉夢
◎弦齋夫人　五月の珍料理　△わらび△ぜんまい△鯰
◎少女欄　弦齋氏意匠並に執筆
◎閑院宮女王殿下御在校中御勉強(跡見季子)
◎我娘を嫁に遣りし時の實驗談(阿部夫人)
◎子供に親の云附を守らす法……(棚橋絢子)
◎活動的婦人鳩山女史……
◎米國中流社會の住家具
◎小兒消化不良の病(加藤博士)
◎結婚前の理想と後の實際
◎どもり全治實驗
◎東京女學生間の新流行……
娘時代の生活法　村井弦齋

婦人世界臨時増刊　化粧かゞみ
◎大好評(四月十日發行)定價一冊金拾五錢郵稅壹錢五厘
村井弦齋立案校閲　和洋新式化粧法

東京京橋南紺屋町　實業之日本社　(振替貯金口座六參貳番)　賣捌各地書店

ムスク香水

(大瓶壹圓◎中瓶六拾五錢◎小瓶二十五錢)
◎本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹸本舗
本舗　松澤常吉
(電話本局四四五番)

ラクダ石鹸

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかほりを失はざる一大特點を有す

定價　大形廿錢　小形十錢

芳香藥種問屋　東京日本橋區本石町三丁目　本舗　井上太兵衛

第四回新學期開始

女學講義録

會員大募集　五月三十日迄入會金全免

◎本會は下田棚橋津田諸女史の賛助に成り講師は皆斯道専門の大家也◎會費最も低廉都合一ヶ月の遊學費にて全期を了はるを得
◎中央新聞曰く講述何れも平易にして親切なれば初學の女子の講習には最も可なり◎報知新聞曰く天下講義録多しと雖も實益と趣味と併せ有すると斯くの如きは稀れ也◎都新聞曰く講義平明にして用意親切なり

父母の膝下に在て高等女學校全科を僅に二ヶ年で修了する事が出來ます講義は文部省令に據れるは勿論更に家庭の實用に適する科目を加へ丁寧懇切に講述します
◎規則書申込次第直に進呈すべし◎

大日本淑女學會
東京神田西甲賀町十番地

東京勧業博覧會會場第參號館内半襟部に貳陳列呉服部に貳陳列織物部に壹陳列第壹號館化粧品部まげ形美人寫眞洗粉出品

春本季節草花模様
半ゑり帯揚類

○本春節用レースショール○長襦袢○同袖
○羽織肩裏地○片側帯○廣帯地○ネクタイ
○裾模様け出し○美人ひも帯止め○前かけ
○紋り兵見帯○伊達巻○下じめ○懐中帛紗

賣店は　池の端雪見橋最寄　ゑり治
支店は　神田表神保町壹　電話本局九五二　ゑり治
本店は　新橋竹川町十二　電話新二〇二七　ゑり治
出張店　新橋際博覧館内階下　ゑり治

商品案内表無代送呈

商品概要
金銀時計類及附屬品。眼鏡類
寶石入指環。金銀盃
蒔器類。洋食器。七寶花瓶
貴金屬美術裝飾品各種

大勝堂

東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

最上醤油元祖

○宮内省御用達也
○開業二百六十三年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

釀造元　下總銚子町
濱口合名會社
(振替貯金五〇二一)

四月一日より
第十三回新柄陳列會
寄せ切れ見切り反物大賣出し
懸賞裾模様圖案展覧

營業科目
(新柄呉服太物類　舶來小間物化粧品類)
(歐米流行洋服類　帽子洋傘履物類)
(鞄及旅行用具類　室内裝飾品類)

食堂及び寫眞場の設けも有之候

三越呉服店

日本ばし駿河町

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）

日本興業銀行

電話本局 三、三〇〇番 四一一番 (特)三七一番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 森村銀行

電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目

株式會社 第三銀行

電話浪花四一二番 浪花四五一番

預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務を便宜に取扱ひ申候

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎

小石川表町二十二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二三七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
牛込細工町二番地 西川第三支店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

スコット乳菓

小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ

說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八號
スコット乳菓部ヘ御申込アレハ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館

米國貿易商會

袴乃親王

卸部 東京日本橋區長谷川町 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部 本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

御半ゑり處

京橋銀座一丁目 木村屋

東京勸業博覧會第二號館出品
尙不忍池畔雪見橋際賣店新設

◎內科診察 毎日午前宅診 午後往診
牛込區砂土原町三の十六（電番一〇二三）
醫學博士 栗本東明

眼科專門 （診察）午前七時ヨリ十二時 午後三時ヨリ五時迄
神田區蓮雀町十八番地（郵便局前）
ドクトルメヂチーネ 宇艮田唯子
▲毎月第一日は診料藥價共無料

◎水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

産科婦人科專門 ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科 診察從前の通

東京病館
芝愛宕町 電話新橋二六四 同二六二〇

◎◎婦人科小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

秘尿生殖器科○梅毒科 午前 午後
牛込横寺町二八 郵便局上左側町
杉田醫院

小兒科診察
特ニ乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
診察時間（午前九時ヨリ十二時）
獨逸新式種痘 日曜午前
拙者儀久シク獨逸大學ニ於テ斯學ヲ專攻シ歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトルメヂチーネ 長井岩雄
日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

內科小兒科 特に呼吸器病
麹町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

婦人科産科榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎 毎日午前診療
副院長 醫學士 久保徳太郎 毎日夕刻診療
東京麹町三番町廿三（電話番町三九五）

◎婦人病專門
芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三二四
院長 櫻井克己
櫻井醫院

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
●電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番
鳥山內科院

院長 ドクトルメヂチーネ 峰秀世
神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰內科醫院

內科一般 午前宅診 午後往診
東京神田區美土代町三丁目十七番地
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

産科婦人科
日本橋區濱町三丁目七番地
楠田病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

（松）

五月一日より
夏衣新柄賣出仕候
寄せ切見切反物も夥く取揃へ日々差換へ陳列致し候
御便利の爲め博覧會入場券景品相添へ差上申候

神田今川橋
松屋呉服店

花王石鹼 原料騰貴と品質改善のため
一個に付 金壹錢 直上げ仕候

花王石鹼は化粧、衛生、經濟を兼備せし家庭用石鹼の覇王なりと内外に賞讃せられつゝあり此賞辭に背かざることを期し層一層品質精撰仕候間倍々御愛顧あらんことを偏に奉希候

明治四十年五月
本舗 東京馬喰町 長瀬富郎 敬白

英國最新輸入
眞正 クイーン白粉
高等 クイーンオイル 香油
發賣本鋪 東京 三井花陽堂

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達 玉寶堂
電話下谷 特一九六五番 一二四四番

牛乳ノ主成分ニテ製セル
乳白化粧水 レート

在來化粧水ニハ單ニ皮膚ヲ滑カニスルモノアレドモ未ダ營養ヲ與ヘ且ツ美艶純白ニスルモノナシ獨リ乳白化粧水レートハミルクノ有効分ノミヲ精製シ濃厚ナル香氣ヲモ加ヘ少量ニテ効多ク皮膚ノ細胞作用ヲ活潑ニスルヲ以テ自然純白美麗ニシテ天然ノ光澤ト色彩トヲ與フ

定價 大瓶金五拾錢 小瓶金三拾錢

東京 大阪 平尾賛平發賣

偲田秋聲氏著 小峯大羽氏畫
小説 花の縛
實價六十五錢 郵稅八錢

此編は出生立と思想とを異にせる異腹の兄弟が互に暗闘せる状を描けり、これ秋聲氏が尤も得意の處筆端躍して光芒陸離！

畔柳芥舟氏序 登張竹風氏序 後藤宙外氏序 泉鏡花氏補 泉斜汀氏著
小説 深川染
前編實價五十錢 郵稅六錢

時春なれや駘蕩たる春光に落花と狂ふ胡蝶の態、結構の富麗、布置の妙、讀者已に恍惚として彩雲堆裡に入るの想あらむ

發兌 東京日本橋通四丁目 春陽堂

三個入壹箱毎ニ景品券壹枚宛差入あり

日光遊覽無料券附

ニッケルかん入 松澤ホーサン石鹼發賣

●發賣は四月五日より廿五日迄●數は僅に壹萬箱賣切ない內買求を乞ふ●籤引にて貳百名日光行に當り其他の方へは（化粧の友）と申本を進呈し升●市中賣藥小間物化粧品店にあり●品切の時本舗へ注文あれば届け升●直段は鑵入三個入壹箱正價金六拾錢

本舗 東京日本橋區本石町四丁目 松澤常吉

日光行ハ上野驛 五月十二日（日曜日）出發

明治四十年五月五日發行（毎月五日二十日二回）（定價金三錢 一ヶ月六錢 郵稅不要 廣告料一行金六拾錢）發行兼印刷人 山岸俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込區市谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

社告

子爵 笠原長生立案
佐藤正校閱
愛國婦人會編纂

奧村五百子詳傳　全一冊

一部金五十錢　郵税四錢

本會の主唱者たる奧村五百子女史の傳記は明治昭代に於ける日本婦人の活動的歷史なると同時に一面は愛國婦人會發達の歷史なり今や本會之れが編輯の任に當り材料を精選し凡そ四百頁大の一書冊となす其間に寫眞版を挿み文章を平易にし且つ敎育的に編纂し會員は素より汎く全國姉妹に頒たんとす此際會員は卒先して購讀方申込まれたし

尚本書よりして得たる多少の利益は擧げて奧村氏の紀念碑建設の費用に供したく故に可成多數に購入ありたし

發行並ニ賣捌所　愛國婦人發行所

◎評議員會日取　五月分評議員會は左の如く定めたり

五月八日（第二水曜日午後二時）

◎評議員會例會　四月廿四日午後二時より評議員會例會を開會せり出席者は理事岡部抵子、監事九條惠子、評議員井伊常子、鍋島輝子、松平須磨子、堤常子、三輪田眞佐子、岩佐德子、關郁子、黑木百子、新山雅樂子、仁杉歌子、中山幸子、松浦島子、大谷かち子、鳩山春子、佐方鎭子、山脇房子、三井榮子、三井五十子、三井すて子、三井照子、菊地咸子、高木鎌子の諸氏にして議案一號より四號までを議決して退散せり其議決事項左の如し

（一）總會の時機を以つて各支部主事若くは專任事務員を七日間本部に集會し各支部下の情況を聞くと同時に業務の打合會を開く此の爲め費用八百圓支出の件（可決）

（二）靖國神社祭典中接待費用三千圓の處一百圓増加の件（可決）

（三）總會費用豫算四千六百圓の處五百圓の増加支出の件（可決）

（四）偕行社へ金百圓を寄附する件これは常に同社を借受けつゝあるを以つて社內修理用に寄附の件（可決）

◎總裁殿下御歸京　關西地方の支部總會に御臺臨あらせられたる總裁宮妃殿下は會長岩倉久子評議員有島幸子の二氏を隨へせられ去る三十日午後八時無事御歸京あらせられたり新橋まで御出迎せしは谷理事始め評議員板垣絹子鍋島易子井伊常子山地謙子細川同子伊東美津子尾崎八重子長谷川好子清浦錬子千家俊子東郷鐵子高木富子等六十余名なりき

第六回總會彙報

本會第六回總會は來る十九日青山練兵場に於て擧行せらる

▲總會々場　會場に青山練兵場東南側凡そ一萬坪を借受くる事となり陸軍大學校の裏手に式段を設け會場の四周には矢來を結び幕を張り以つて一大式場を形作る筈なり

▲餘興　陸軍々樂隊一小隊を傭入れ絕へず演奏する筈なり

▲紀念品　當日來會せる會員には紀念として會長染筆和歌入の扇子壹對つゝを贈與する筈なり

▲拜觀場所　濱離宮（五月廿一日佩有功章者及職員丈け）內藤植物御苑（五月廿日雨天なれば廿一日佩有功章者及職員丈け）大日本帝國軍艦（五月廿二日横須賀軍港一般會員二百名を限る）小石川後樂園（廿日廿一日會員一般）の拜觀並に縱覽を許さる

▲割引觀覽所　東京博覽會は大祭日日曜日は金十錢に平日は金七錢に割引遊就館は半額に割引の件承諾せり

▲汽車汽船の割引　總會出席の爲め各鐵道汽船の賃金割引は左の如し

▲汽車の部（官線は總て二割引通行期限五月廿六日迄）

會社線名	通用期間	割引步合
北海道鐵道	五月十四日ヨリ五月廿六日マデ	貳割
川越鐵道	總會當日前三日後二日間	貳割
九州鐵道	全 前十日後十日間	貳割
東武鐵道	五月十八日十九日二日間	貳割
總武鐵道	五月十八日十九日二日間	壹割
阪鶴鐵道	五月十九日ヨリ五月廿五日マデ	貳割

會告

來る五月十九日（日曜日）午後二時より青山練兵場內に於て本會第六回總會相開候間御出席相成度候也

愛國婦人會

愛國婦人會會員御中

注意

一、當日は會員章佩用の事
二、各支部よりの案內狀持參の事
三、小見同伴は堅く謝絶の事
四、參列者は雨天の時設備狹隘につき雨覆持參の事

會社線名	通用期間	割引步合
高野鐵道	全上	貳割
南海鐵道	全上	貳割
上武鐵道	五月十三日ヨリ五月廿五日マデ	三割
青梅鐵道	總會當日前三日後三日間	貳割
關西鐵道	五月十二日ヨリ五月廿六日マデ	貳割
德島鐵道	總會當日前後各七日間	五割
中國鐵道	全上 全上	貳割
京都鐵道	五月十六日ヨリ全廿二日マデ	貳割
上野鐵道	總會當日前五日後七日間	貳割
北越鐵道	全 前七日後七日間	貳割
伊豫鐵道	總會當日前七日後七日間	貳割
豐川鐵道	全上	貳割
尾西鐵道	全上	貳割

汽船の部

會社線名	通用期間	割引步合
日本郵船	總會當日前十日後十日間	貳割
大阪商船	全 前十日後十日間	貳割
內國通運	五月十六日ヨリ全月廿五日マデ	貳割
東京灣汽船	總會當日後十日間	貳割
關西汽船同盟	五月九日ヨリ全月廿九日マデ	貳割
陸奥汽船	總會當日前十日後十日間	貳割
鎭佐汽船	全 前七日後七日間	貳割
安通社	全上	貳割
東環汽船	全上	貳割
宇和島運輸	全上	貳割
南豫運輸	全上	貳割

▲臨時寄附　總會用として使用する土瓶百個茶碗千個（本會文字入此代金參拾圓）井伊評議員阿部評議員より臨時寄附せらる

▲式後翌日の宴會　招待狀を發したる佩有功章者及び地方の職員等には式の翌廿日九段偕行社內に於て午後二時より五時迄の間に於て茶話會を催す筈なり該招待券は當日出席の方に會場に於て渡す事

▲來會者注意事項　來會者の注意事項は左の如し

一　各會員は必ず開會時限前に式場入口に於て案內狀を差出し入場する事
二　君ケ代の吹奏ある時は敬禮の事
三　開會閉會等は皆喇叭の號音を以て之を報す
四　會場は青山練兵場內東南側（陸軍大學校の裏手）なり
五　開會前には式場に整列し喧噪に渉らざる樣各自注意の事
六　紀念品は會場內一定の場所に於て交付し同時に觀覽劵を頒與す
七　會場內にて本、整、接、贈、茶等の文字ある櫻花形の徽章を胸間に附着したる職員あり何事に依らず御尋あれば御便宜を與ふ
八　遠路來會者便利の爲めに會場に於て若干の食物賣店開かせ置候事
九　會場雨覆は狹隘にて一般來會者を收容する能はず雨天の時は各自雨具御用意の事
十　會場內にて御携帶品を預るの場所を設けざるに付各自御携帶の事但馬車、人力車の置場は設置候事
十一　來集道筋は青山通り、權田原通り、四谷信濃町停車場通り何れにても無妨事

靖國神社大勅祭につきて本會活動彙報

▲休憩所設置　例年の如く五月二日より四日迄牛ケ淵公園內に天幕を張り遺族の休憩所に供し各職員接待に從事したり

▲茶菓と紀念品　休憩所に於ては茶菓を饗應すると同時に總裁殿下御染筆の軸物を本年合祀されたる軍人遺族に一個宛配與したり

▲餘興　餘興としては軍樂隊を招き休憩所內に於て絕へず奏樂したり

▲大祭委員補助　神社に於て神杯授與の手傳には合計百十人の職員出張なしたり

▲靖國神社へ寄附　例年の如く本會より同社へ左の通り寄附せり

一　鏡餅　一重
一　掛軸　一萬五千本
一　茶菓　三萬人
一　軍樂隊　祭典中
一　接待所設置裝飾類一式

各地支部狀況

▲熊本支部　熊本縣下益城郡年禰村愛國婦人會員にて去月十七日正七位奧村五百子刀自及三十七八年戰役戰病死者追悼法會を營む正午十二時開會僧侶三名の法會の讀經あり會員五十餘名並に軍人遺族の燒香禮拜了つて布敎師南木大癒師の說敎ありて五百餘の聽衆に引續き本會の趣旨精神に關する演說ありて多大の感動を與へたり參拜人には靈前へ供えたる菓子等を配與し午後三時三十分閉會尚會後別席にて軍人遺族には佛式の酒飯を饗したりと

▲三重支部　本月廿日三重縣內廢兵八百餘人に對し同縣支部主催慰藉會を津市觀音境內暗座に開催せられ三重支部職員始め幹事部長幹事五十八名幷に男子職員參列當時有松支部長は東上不在仍て副長鶴見淸子代て開會の辭を朗讀す當日は雨天にも拘はらず正賓陪賓無慮壹千餘人殊に盛會を極め一同斡旋の勞を執り且參列廢兵五百五十餘名に對し同支部より紀念として本會徽章染込之風呂敷一枚つゝを贈與し慰安の誠意を表し一同滿足嬉娯の情を見受けたり

▲長野支部　長野縣埴科郡幹事部員總會幷に故奧村氏追弔會を去る三月三十日同郡松代町小學校內に開きたることは旣報の如くなるが當日節香として會員の捧けたる金拾參圓貳拾錢は當發行所の手を經て刀自の遺族に送付方依賴ありたるにより直ちに送付せり

▲靜岡支部　靜岡縣田方郡田中村愛國婦人會員總會を四月二十日午後一時同村尋常高等小學校內に開く當日雨天にも不拘幹事部長鈴木たよ子顧問鈴木七次郎氏其他委員會員等出席者約貳百名にして支部よりは李家支部長事務員壹名臨席し君が代合唱にて式を始め部長告辭幹事部長祝詞會員總代の答辭にて靜肅に擧行し了て茶話會に移り支部長顧問其他有志より會員に必要なる講話あり餘興として箏尺八の合奏數番ありて午後六時散會せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兵庫支部第一回總會

愛國婦人會兵庫支部第一回總會は四月廿四日午後二時湊川神社境内に於て開會せり來會者は會員一萬遺族廢兵二千三百餘名にして午後一時三十分總裁閑院宮妃殿下は岩倉會長及び有島評議員を隨へられ式場に成らせられ暫時御休憩其間に於て功勞者澤野いと子に謁を賜はり午後二時君か代の吹奏中に式場に御臺臨あらせられ服部支部長開會を告げ後ち恭しく職員名簿及び會員表を捧呈し服部支部顧問三十七八年戰役に關し本會に賜はりたる　皇后陛下の令旨を捧讀し次に總裁殿下より左の御諭旨を賜る

愛國婦人會兵庫支部は會運益々隆盛に赴き會務亦大に整頓せり
今茲に第一回總會の式を擧くるに當り諸氏と親しく相見るは智惠子の誠に喜ぶ所なり
惟ふに本會の事業は年を逐ふて發展せしも其前途は尚遼遠なり會員諸氏彌々精勵し以て會務の振暢に努め本會の主旨を達せんことを望む

次に服部支部長は左の奉答文を朗讀す

本支部第一回の總會を開くに當り總裁宮妃殿下の御臨場を辱うし優渥なる御令旨を賜ふ光榮何者か之に如かむ抑遺族廢兵の救護はいよ〳〵緊切にして一日も忽にすべからず本支部役員會員ともに協力一致益々奮勵して事に當り業務の擴張を計り以て令旨に副ひ奉らんことを期す茲に謹みて奉答す

續いて岩倉會長の祝詞會員總代不破まさ子の祝詞あり次て會務並に會計の報告を爲し終つて總裁殿下より有功章御親授あり(一等松方よし外四名二等前川古井子外七名三等山田實外廿九名)尚廢兵總代秋山太藏氏遺族總代安村少將未亡人に特別下賜金を御授與相成り式の正に終らんとするに當り岩倉會長は有島評議員支部長顧問を伴ひ壇を下りて遺族廢兵席に進み慰問の辭を陳べ服部顧問之を敷衍し次に支部長閉會の辭を陳べ君か代吹奏中に總裁殿下御退場終つて會員一同退散式を終りしは午後二時三十分なりし式後遺族廢兵には紀念扇子折詰及菓子を呈し會員には紀念扇子及菓子を頒ち來賓には繪馬堂内に於て立食の饗應あり場内各所に於て餘興を催し盛會を極めたり

岡山支部第一回總會

愛國婦人會岡山支部第一回總會は四月廿六日午前十時より後樂園内に於て開會せり來會者五千百名中遺族廢兵千百五十名にして總裁殿下は寺田支部長の御案内にて式場に御臺臨續いて君か代の吹奏あり次に寺田支部長職員及び會員名簿を奉呈して開會の旨を告げ次に寺田顧問は　皇后陛下より本會に賜はりし令旨を捧讀し終つて總裁殿下には左の御諭旨を賜はりたり

愛國婦人會岡山支部は夙に本會の主旨を體し救護事業の大に發展せるを見る
今茲に其第一回總會を開くに當り諸氏と親しく相見るは智惠子の尤も喜ぶ所なり
抑々本會救護の事業は刻下の急務なるを以て會員諸氏益々同心協力會務の擴張を圖り其實績を擧げんことを望む

次に寺田支部長は左の奉答文を朗讀す

愛國婦人會岡山支部第一回總會を開き茲に畏くも總裁殿下の臺臨を仰ぎ特に優渥なる御諭旨を賜はりたるは當支部の光榮とする所なり自今益々同心協力會務の擴張を圖り以て臺旨に副はんことを期す謹んで奉答す

續いて丸山副支部長の會務及會計の報告あり了つて岩倉會長祝詞を朗讀せられ次て支部幹事坂本鶴子氏は支部會員總代として祝詞を朗讀せり右終つて有功章の御親授あり(一等有功章野崎陸子二等有功章小林千鶴子以下十三名三等有功章小野芳子以下三十六名)尋て遺族廢兵に特別賜金の御授與あり廢兵總代として步兵伍長家守小市郎氏遺族總代步兵少佐萩田廣氏未亡人健子氏之を拜授し岩倉會長は遺族廢兵に慰問の言葉を陳べられ是にて式全く終り支部長閉會の辭を陳へ總裁殿下は御休憩所なる延養亭に入らせられ次て參列者一同退散せしは午前十一時なりし午後は鶴鳴館にて來賓及び有功章佩用者に立食の饗應あり殿下も御臨場あらせられ午後は餘興として吉備樂あり非常の盛況なりし

愛國叢書出版廣告

主婦の職分　第壹編

表裝は色刷にして美麗、印刷の鮮明なる、ふりがなのつきたる、よき本なり

目次大要

家庭革新の目的(子爵渡邊國武)女子と國家の關係(文學博士村上專精)主婦の資格(子爵松平正直)社會的禮儀(女子高等師範學校教授佐方鎭子)家庭の秩序(成女學校長嘉悅孝子)日本民族適合の家庭(三輪田眞佐子)家族制と別居制(海老名彈正)同居制と別居制(本多貞子)人生の至樂(文學博士前田慧雲)女子年中行事(東京美術學校長正木直彦)女子と美術心(伯爵松方正義)園藝趣味の養成(仁尾繁子)家庭音樂(伯爵酒井忠興)(前東京音樂學校長大島義修)用意(小浦義子)小事(下瀨勝千代)自他の樂(有島幸子)下女の使用(松崎悅子)儉約(江原素六)金錢の使い方(コーツ夫人)買物(下田歌子)家計費目の割合(吳文聰)家庭(子爵加納久宜)英國の家庭教育米國婦人の經濟思想(小崎千代子)東西婦人の比較(法學博士添田壽一)英國と日本の家庭(園田孝吉)日米の家庭(安部磯雄)等其の重なるものにして實に主婦の室典として有益無比の書なり

▲實價金貳拾錢　郵送料は當方に於て支辨の事

東京市九段牛ヶ淵公園愛國婦人會内　愛國婦人發行所

愛知支部第一回總會

愛國婦人會愛知支部第一回總會は四月廿九日午後一時四十分より東本願寺別院内假式場において擧行されたり總裁閑院宮妃殿下には深野支部長の御先導にて式場に成らせられ支部顧問深野知事は先づ開會の辭を述べ次て　皇后陛下より本會に賜りたる令旨を捧讀するや總裁妃殿下には左の御諭旨を賜りたり

愛國婦人會愛知支部は會旨の普及と進行とに力めたるを以て事業大に振興し會員も亦多きを算するに至れり本日茲に其第一回總會を開くに當り諸子と親しく相見るは智惠子の深く喜ぶ所なり今や戰役の後を受け本會の責任愈重し會員諸子益奮勵し以て本會の目的を達せんことを望む

次に深野支部長答辭を奉り次て會計監督高橋福三郎氏の報告、岩倉會長の祝詞會員總代田部少將夫人の祝辭あり次に功勞者百四十餘名の總代に有功章を御親授あり次に廢兵總代陸軍中尉谷清松氏及び遺族總代三村中佐未亡人に金品を賜り畢て深野顧問は廢兵遺族席に至り慰藉文を朗讀し二時廿分式を畢りそれより殿下には幹事評議員一同を古御殿に御引見の上一同と共に御撮影あらせられそれより宴會場に入らせられ同四時過一旦御歸館の上深野支部長等の御招待により名古屋ホテルの晩餐會に御臨場、名古屋踊を御覽ありたり尚當日總會に參列せしは來賓大久保師團長田部旅團長文武高等官有功章佩用者廢兵遺族その他各種の會員無慮一萬二千餘名なりき

京都支部第六回總會

愛國婦人會京都支部第六回總會は四月廿八日午前九時京都御苑内博覽會協會々場内に於て開會せり來會者は會員二千餘人遺族廢兵二百五十名にして打鈴一番參列者の着席終るや總裁殿下御名代として差遣されたる岩倉會長及び名譽會員賀陽宮妃殿下並に來賓として村雲尼公式場に臨まれ支部副長島田才子氏開會の辭を朗讀し次に大森支部長　皇后陛下より本會に賜りたる御令旨を朗讀し續いて岩倉會長は左の御諭旨を朗讀せらる

愛國婦人會京都支部は會員年を逐て加はり會務亦益々整ひ茲に第七回の總會を開くに至れるは智惠子の誠に喜ぶ處なり惟ふに遺族廢兵救護の事は將來彌々其發展の必要を見る會員諸氏倦まず撓まず益々奮て會旨振暢に努め以て其實績を擧げられん事を望む

大森支部長は左の答辭を朗讀す

愛國婦人會京都支部第六回總會を開くに當り總裁宮妃殿下には特に優渥なる御諭旨を賜はり殊に光榮とする處なり我支部の會務は爾來倍々發展して今日に至れり斯は畢竟總裁宮殿下の恒に懇篤なる御諭旨に因れる結果に外ならず我等感激に堪えざる也我等會員は一層同心協力以て會運の發達を企圖し御諭旨に背かざる事を期す可し茲に謹て答辭を述ぶ

次て會務の報告あり北本菊子外二十六名に有功章を授與し川島末菊氏閉會の辭を陳べ夫れにて式を終へたるが遺族廢兵並に會員には紀念品を與へ後園の園遊會場に入り壽司、餅、甘酒、關東煮等の模擬店に就て歡を盡し非常の盛況を極めたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百廿七號

明治四十年五月五日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

愛國婦人會各地支部顧問招待會光景

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN